

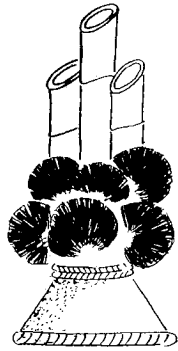
1998年1月30日発行 昭和42年12月 国定第2種郵便物認可 (毎月1回20頁発行) 第12巻第1号

聖徒の道

1

VOL. 12 No. 1





しんねん

おめでとうございます

もくじ

聖徒の道

1月号

△予言者のことば▽

教会で働らくように
召されたあなたに
.....

1

伝道部長会メッセージ
.....

3

系図

ヒゼキヤのトンネル
.....

5

新年のごあいさつ

北から南から
.....

13

証詞

専任宣教師
.....

28

地方部宣教師
.....

29

伝道部ニュース

岡町支部鋳入れ式
.....

30

名古屋に二つ目の支部誕生
.....

23

MIAリーダー
.....

35

△予言者のことば▽

教会で働らくように召された
あなたに

デビッド・O・マッケイ大管長



あなたに

あなたは毎週、毎月働らきながら、なおあなたの奉仕の結果は、誠に小さなものであると思われるかも知れません。けれどもあなたが正しい模範を示し、若い人たちに与えた強い印象は、永遠に生きて行くであります。あなたは無駄に働いているではありません。あなたは人間が関心を持ちまたは従事することのできる内で最も貴い奉仕にたずさわっているのです。

私は全教会を通じて、奉仕しようとする気持は、単に職に就いている人だけでなく、ある場合には無関心なように見えても私たちが何か奉仕する機会を与えさえすれば、丁度昔のサムエルが「しもべは聞きますお話してください」と言ったように、すぐ応じようとする人たちがおることを、ありがたく思っております。

神は私の愛する働らき手の皆さんすべてを祝福します。あなたの感化が、無関心を装っている若い青年男女の心におよびますように。彼らに何か仕事を与えなさい。そうすれば彼らはあなたに加わるでしょう。あなたの働らきが、やまびこのように人から人へと永久にこたまして前進して行きますように。

神権者のあなたに

神を代表する責任を感じる者は誠に幸であります。彼は、いかなる状態に在っ

年をとったと思われる方へ

精神は決して老いません。あなたは常に若さを感じることが出来ます。肉体は往年のように応えないかも知れませんがあなたは常に、はつらつとした精神を、喜びを、真の生きる靈感を持つことができます。

生きることは光と熱を発散することです。あります。すべての人が生れてから死ぬまで、誰かに何らかの影響を及ぼしているのです。小川が海に向かって流れるとき、どんなへんびなところを通ろうともいわずにその沿岸地帯をうるおさずには流れてしまわないと聞かされております。どこかに輝きを与えることなくして星が上ることはありません。すべての生命が強く、進歩向上することなくして、いかなる生命も強くその目的に高められることはできないのです。

皆さんがこのことを自覚して精神的に常に若く幸福に生きて行かれますように神の祝福が常に皆さんの上にありますように。

則を守って祝福を受けられるということを、信ずるというよりもむしろ知っています。

イエスが神からつかわれた教師であることを知っていたユダヤ人の指導者、ニコデモは夜訪ねて来て、イエスに人は何をしなければならぬか尋ねました。イエス・キリストは答えました。

。だれでも、水と霊とから生れなければ神の国にはいることはできない。

(ヨハネによる福音書三・五)

兄弟姉妹の皆さんにまた世の中の人々にお尋ねしますが、もし人が水と霊とから生れなければならぬとしたら、イエス・キリストを知らずして死んだこれら数千万の人々は神の王国に入ることができのでしょうか？

ある人は彼らはバプテスマを受ける機会がなかったので救われるでしょうと言うのであります。もしも彼らがその儀式を受けることなくして救われるなら、あなたも私も儀式を受けなくても救われるはずで。けれども、もし私にもあなたにもその原則に従うことが必要であるなら、すべての人にも必要であります。

これが末日聖徒イエス・キリスト教会の立場であり、私たちの救主の言葉に一致するものであります。ただ末日に神殿においてだけ、すでにこの世を去った愛する私たちの肉親に対する救いの儀式が与えられるのであります。

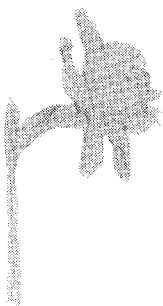
ても、自分の行いと言葉を自覚して居るべきであります。いかなる神権者といえどもその家庭で敬虔の思いに欠けていて、神の信頼に真実であることはできません。いかなる神権者もその妻を不遜に取扱うべきではありません。またいかなる神権者といえども無駄だからと言って食物の祝福を願いまだひざまづいて神の導きを求めることを無視すべきではありません。家庭は男が神権を持ち神権を尊ぶことによって変るのであります。

神の権能によって神の神権を持つことは男にもたらされる最大の賜であり、それにふさわしくあることは最も大切なことであります。清潔な体と清い心と、友だちに奉仕しようとする気持ちをもって神権を尊びなさい。忠実にまじめな生活をしなさい。あなた自身に対し、またあなたの兄弟に対し、家族に対し、またあなたが共に働らく人に対し、真実でありなさい。目はあなたの上であり、すべての人となりの基礎は、その真実さと正直さの上にかかっているのだから常に正直でありなさい。神権を持っているすべての男は、その基礎の上に建っているのです。

神殿の仕事に喜びを

見出す人へ

あなたは神殿に入ることによって、イエス・キリストの福音を聞く機会がなくて死んだ人たちが、それを聞きその原



△伝道部長会メッセージ▽



小松伝道部長御一家

この素晴らしい教会の会員たちにとって一九六八年はまた素晴らしい年となりました。私たちの伝道部において、本年は翻訳計画が始められるでしょう。また夏には若人の喜びの集い、全伝道部、ユース・コンファレンスが開かれるであります。またこの他に素晴らしい、心を踊らせるようなことが私たちのためにたくわえられてあります。誠に主はこの日本の人々を祝福しておられます。

私は皆さんと親しく交わることができましたことを感謝しております。皆さんの精神と信仰と素晴らしい模範は、長く私共の記憶にとどまることでしょう。過去において多くの素晴らしい人々が教会に加入し、本年もまた多数の人たちが加入するであります。

私は、また私の伝道部長会、渡辺、田中副伝道部長に感謝し、神は実に生き給うという彼らの素晴らしい証に對し、また喜んで主の御業に捧げた多くの時間と心に感謝しております。私たちは伝道部を通じてまた支部においてこのような素晴らしい指導者を持っております。

一九六八年の一月一日があなたの生涯にとってよい日でありますように、よい日となるようにでなくてよい日となすようにして下さい。ハンクス長老は言われました。

ました。

今日はあなたに残された生涯にとっての第一日目であります。あなたは過去においてどのような人であったとしても



渡辺第一副伝道部長御一家

悔改めることができるのです。私はあなたの一九六八年が幸福な進歩の年であるようにお祈りいたします。天のお父様が毎日私たちを導き私たちが正しい選択ができますように。

すべての価値ある仕事を推進するように肩の力を以て車を押し進めようではありませんか。神の祝福が皆さんの上にありますように。

一九六八年を迎えて

渡辺 曜

愛する全国の兄弟姉妹の皆様、あけましておめでとうございます。輝やかしい成長、発展の年、一九六八年を豊かな主の祝福と導きとみ守りのうちに迎えることができ、深く感謝致しております。皆様もよくご存知のように、今年は文字通り当伝道部にとって一大躍進の年であります。翻訳事業部の新設、九州地方部の発足、伝道部の分割、ユース・コンファレンス等、まことにこの真実の福音が予言のように「ここより転じて世の果

にまでも達せん。あたかも人手によらず山より切り出されたる石の転がり出でて、ついに全世界に充ち満つるが如し」(教義と聖約第六十五章、二節)であります。この意義ある年の始めに當り、私たちが皆、目的に於て、働きに於て、「一つ」となつて一年を力強く歩むことができますよう心より祈ると共に皆様方の上に主の選り抜きの祝福と導きが常にありますよう祈って止みません。

新年のごあいさつ

田中 健治

あけましておめでとうございます。昨

年中御国建設のために日夜を分たづ働き

愛する兄弟姉妹の皆さん
新年おめでとうございます。
新年の御挨拶をするに當つて私は一寸立ちどまつて、私が天のお父様から受けている数々のお恵みを数えずにはおられないのであります。私は神のつくり給うたこの美しい世界に生かされ、お友だちや見知らぬ人の親切や愛を受けていることを感謝しております。皆さんが神さまから受けている多くの祝福を数えて見てもらなさい。



田中第二副伝道部長御一家

て下さいました兄弟姉妹の皆様にあつく御礼申し上げます。まだまだ困難な問題が私達の努力と信仰ある祈を待っており、さすが、本当に恵まれた新年である、とつくづく思はされています。神様の恵はそのプログラムを遂行し参加する時に来ます。

そしてそのような日々をしばらく経過してから、やがて私達の眼にその恵の結実が見えて来ます。その意味で暦が三百六十五日で一年と言う区切があることは何と幸いなことでしょうか。一年前に私達はホームテイチングの恵を受けていませんでした。今は私の家庭も含めて全国で少くとも百家族の方と百名余りのホームテイチャーの方々がその祝福を受

けています。このプログラムに熱心に参加して下さっている方々は新年に行う挨拶の意味がこんなにも深くなり友情が、愛が、あたたかな結びつきを造り出していることに気付かれるに違いありません。そしてお金や物で替えることの出来ない喜び、永遠の喜びの一部を理解されるでしょう。一年前に伝道の始められた伝道所はもうすぐ支部に組織され、参加すべき多くのプログラムに接することでしょう。小さな支部にとってその責任は山のような重圧感を最初は感じるかもしれません。しかしそれを果すならば、やがて神様の恵みが豊に注がれて強められつつあることが自覚されて喜びが満ちて来るでしょう。何にも知らずにあった一年前と現在の明るい生活を対比させて見れば、何と強く豊かになったことでしょうか。更にお迎えしたブラウン副管長の温容を忘れることは出来ません。その時伝えられた預言は、私達の眼の見る方向を示して下さいました。あの大きな温かい掌に包まれた握手を私の手は覚えていいますし、「ワンダフル」と繰返された小さなつぶやきを私の耳はきこえなくなっても忘れません。献堂された三つの教会堂。その時はほを伝ってあふれ続けたものは私達の中に泉となって乾くことがありません。この日本の中に主と最高の誓約を交された方々が百名も増えしました。生命よりも大切にされるものを悟られた方々の顔は、ハワイの紺碧の空の下で

も、東京のスモッグの下でも輝いています。数多く召される地方部宣教師と、その朝早くからのトレーニングを聞くにつけ人の弱さを励して強きに造り替えられる御霊の尊さ、指導者とそれに喜んで従う召された方々の神様への愛の深さを思はされます。その中から果立つた日本人の専任宣教師の方の活躍振りは誠に快いものです。それはやがて見知らぬ国に宣伝える光栄ある立場を暗示して、受けるのみでなく与える立場に変わりつつある私達の進歩をも見せているのです。暑い暑中に繰上げられた卓球大会の決勝戦も素晴らしいものでした。一人一人のスポーツマンシップは実に清冽なもので、丁度その時間にあつた大雷雨が上って虹を仰いだ感動を裏付けるものでした。これらの例に加えて、数多くの経験が知ろうと知るまいと、私達を進歩させて呉れています。

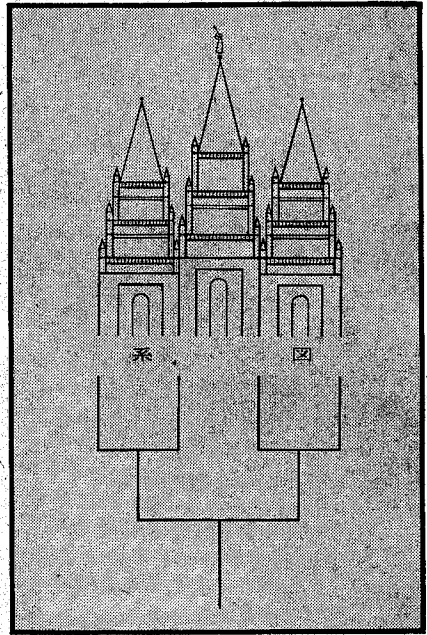
今年はどうな年でしょうか。より祝福の大きい厳しい本物のプログラムに取組む時代になりました。よく「ステキ部ワード部の組織を我等の手に」と言はれ聞かれます。これは一口に言えば現在より、もっと多くの犠牲と奉仕によって、又喜んで差出される財物の奉獻によって可能となるプログラムであります。私達はソルト・レークで出されると同時に（正確には一日前に）もしそれを実行するなら恐るべき速さで前進と幸福をもたらす教会のプログラムに接するように

なるのです。私自身今年に対して次のような期待とおそれをもっています。一、もし指示された事を実行するならばその結果は素晴らしいだろう。

一、もし為さなかったらその歎きは、為した人々の結果が非常に大きいのもっととみじめになるだろう。

幸福と不幸の差がもっと開く年に入るとするならば、ただ為し遂げる方の側にのみ立って進みたいものです。もっと熱心に集会に集い、もっと正確に責任を果し、もっと気持良くお友達を教会へ誘い、もっとよく自分を制御する。喜んで系図を沢山探し、貯金を銀行にするように、天の朽ちざる蔵にもあふれんばかりに納めよう。三年に亘って私達を導いて下さった小松伝道部長さんと御一家の方々と別れはこの夏に控えています。皆さんの御苦勞にこたえるもっとも良い方法は、良い神様の子供、即ち真の末日聖徒になることです。

夏に計画されているユースコンファレンス一つは一つのハイライトとして全国の皆様の集まる日となりますよう準備して下さい。最後にパウロの手紙の一節を御紹介します。『兄弟たちよわたしはすでに捕えたとはいっていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向ってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。』



ダビデから十代目のユダヤの名君ヒゼキヤ王
の固い信仰と偉大な事蹟を回顧して私たちの先
祖探求の熱意を高めましょう

ヒゼキヤのトンネル

ドイル・L・グリーン

聖地エルサレムの地下には、昔の市として長い変化にとんだ歴史を通じて、重大な役割を演じた多くの地下道や、その他の洞窟が存在しております。その一つはヒゼキヤのトンネルまたはシロアムのトンネルとして知られるトンネルであります。それは有名なギホンの泉、または処女の泉と呼ばれる泉からシロアムの池

へ水を運んでおります。この昔のトンネルを掘った話、またそれにまつわる事情は旧約聖書に関心を持つ、すべての人にとって誠に興味ある話であります。

誰でも始めてオリヴ山上に立つて、ケデロンの谷越しにエルサレムを眺めるとき、アモリ人たちによってジェブスと呼ばれ、アブラハムとメルケゼデクの時代にサレムと呼ばれた、この市街を、なぜ

このようなユダヤの荒れすきんだ岡の頂上に建てたのであろうかと思議に感じるのであります。また牧者の王であったダビデがなぜ紀元前一千年に、その首都を、南方二十哩の平原に在ったヘブロンからここに移したのか、わからないでしょう。

(サムエル下 五・六―九参照)

その答えの一つは明らかに、この岡の頂上が提供するところの自然の要塞たる有利さであります。エルサレムの東側の壁はケデロンの谷またはエホシヤファット(エホバの裁きの)の谷から上り坂の頂上に沿うて建てられております。歴史家は、その昔、印象的なチロポエオンと呼ぶ谷が北方からキドロンの谷に連結していたと告げております。二つの谷の間のオフエルの岡の上に早期の市街が建てられていました。この険しい岡は自然の要害を形成しておりました。その後大城壁が建築されてからは早期の民は、多くの大敵の攻撃に堪えることのできたこの要塞を持つことができたのであります。

ここにこの市街を建てるのに、もう一つの大切な考慮すべきことがあったのであります。それは生活に欠くことのできない水の問題でありました。ケデロンの谷の西側の坂に、止ることのないギホンの泉の湧き水のない限り、市街建設者は決してこの場所を選ばなかったであります。歴史家たちはこの泉は遠く紀元前三千年のその昔から、エルサレムの

ために水を備えていたと言っておりま。その水は岩の割れ目から湧き出て日に二十五万ガロンの水を提供すると報ぜられております。これは聖書の中に於て列王紀上第一章でアドニヤが王位をねらった後ソロモンに油をぬることに關係して始めて出て来ます。

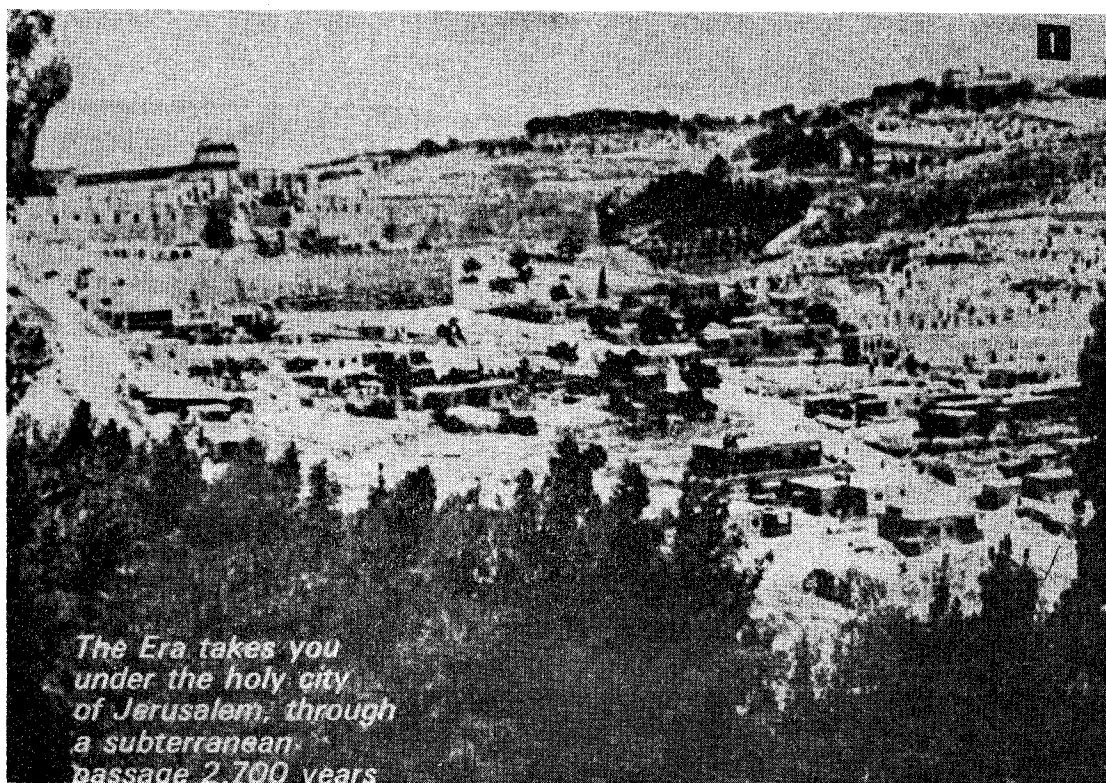
そこで祭司ザドクと予言者ナタンおよびエホヤダの子ベナヤ、ならびにケレテびと、ペレテびとは下って行って、ソロモンをダビデ王のろばに乗せ、彼をギホンに導いて行つた。祭司ザドクは幕屋から油の角を取って来てソロモンに油を注いだ。そしてラッパを吹き鳴らし、民は皆「ソロモン王万才」と言つた。

(列王紀上 一・三八―三九)

この泉がこの市街の人々にとって、大切なものであったから、この儀式的場所として選ばれたと思われま。ダビデはこの泉から縦穴を通じて兵を入城させたので、彼にとってはこの泉は、さらに大きな意味があったに相違ありません。

(サムエル記下五・八参照)

この聖都は、この生命の水の、もう一つの供給源を持っておりました。雨水が注意深く集積されました。ソロモン王はベツレヘムの南方に大きな石の貯水池をつくり、そこから水道によって水をエルサレム市内にひき、岩を切ってつくった大きな水槽に充たしました。神殿の側につくってある一つの水槽は深さ四十呎、直経二百呎あります。全部で一千万ガロ



ンの受容量があったと言われておりません。

けれども現在の私たちの目的からギホンの泉に戻り、紀元前七百年予言者イザヤの時代に帰って見ましょう。

ダビデの子孫ヒゼキヤがユダヤの王でありました。ヒゼキヤ王は、ベンヒンノムの谷で香をたき、その子らを火に焼いて供え物とし、バアルのために、鑄た像を造った父アハズに似ず主の道に従い、しばしばイザヤを通じて神の導きを求めました。彼の治世に神殿は修築され再開されて、過越の祭が再び行われ、異教徒の祭壇が破壊されました。ヒゼキヤ王は曾てレビ人に向って次のように言いました。

「あなたがたは今、身を清めて、あなたがたの先祖の神、主の宮を清め、聖所から汚れを除き去りなさい。」

「今わたしは、イスラエルの神、主と契約を結ぶ志をもっている。そうすればその激しい怒りは、われわれを離れるであろう。」（歴代志下二九・五、一〇）

確かに悪王、アハズの治世に主の怒りはユダヤの民の上にあったようであります。なぜならば彼らは、順次、スリヤ、イスラエル及びエドムの軍隊に打敗られたからであります。（歴代志下二八・五、一七参照）けれどもヒゼキヤが彼ら占領者の縄目からユダヤを解放したのであります。

ヒゼキヤはイスラエルの神、主を信頼

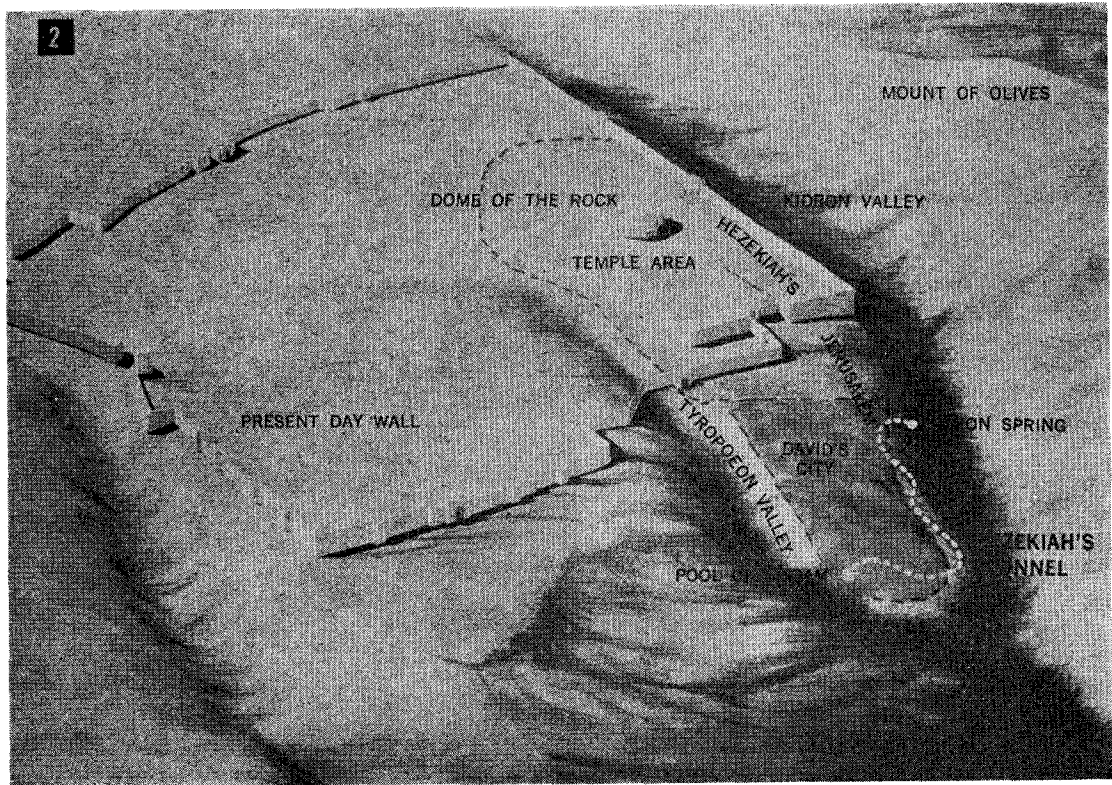
した。そのために彼のあとにも彼の先にも、ユダのすべての王のうちに彼に及ぶ者はなかった。

すなわち彼は固く主に従って離れることなく、主がモーセに命じられた命令を守った。

主が彼と共におられたので、すべて彼が出て戦うところで功をあらわした。彼はアッシリヤの王にそむいて、彼に仕えなかった。（列王紀下一八・五—七）

このときは、パレスタインのすべての民にとって悩まされた時代でありました。ヒゼキヤ王治世四年目にアッシリヤ王、シャルマネザールは兵を率いて北方イスラエル国を攻略し多くの民を捕えしました。

その後数年にわたって、アッシリヤの軍隊は、ユダヤの諸都市を攻撃し、一つ一つかん落させて遂に四十六の城下まちが落ちてしまいました。エルサレムの大市街は風前の燈火でありました。ヒゼキヤは講和を結ぼうとし、アッシリヤの新しい王、セナケリブは貢物を要求しました。ヒゼキヤはこの要求に応え、平和を保とうとして、宝物をただ自分の家からばかりでなく、神殿からも、すべての金や銀を、また聖なる家の扉、柱からさへ貴金属をはがして与えました。けれどもなおアッシリヤ王は降服しなかったらエルサレム市を全滅すると脅迫しました。そこでヒゼキヤはこの大いなる試練のときに臨んで、その導きを求めるため、予



言者イザヤに人を遣わして、彼らの状態を訴えました。

イザヤは彼らに言った、「あなたがたの主君にこう言いなさい『主はこう仰せられる。アッシリヤの王の家来たちが、わたしを聞いた言葉聞いて恐れるには及ばない。』

見よ、わたしは一つの霊を彼のうちに送って、一つのうわさを聞かせ、彼を自分の国へ帰らせて、自分の国でつるぎに倒れさせるであらう。』

この確証を以てヒゼキヤは、降服を拒絶しその民に向かって言いました。

心を強くし、勇みたちなさい。アッシリヤの王をも、彼と共にいるすべての群衆をも恐れるはならない。おののいてはならない。われわれと共にいる者は、彼らと共にいる者よりも大いなる者だからである。

彼と共にいる者は肉の腕である。しかしわれわれと共にいる者はわれわれの神主であって、われわれを助け、われわれに代って戦われる。(歴代志下三二・七一八)

けれどもセナケリブは陰謀の首謀者であって市内に人を送りこんで、その民に王に反抗させて降服させようとした。彼らが携えて行ったメッセージは次の通りであります。

ヒゼキヤは「われわれの神、主がアッシリヤの王の手から、われわれを救ってください」と言って、あなたがたをそ

のかし、飢えと、かわきをもって、あなたがたを死なせようとしているのではないか。

それゆえ、あなたがたはヒゼキヤに欺かれてはならない。そのかされてはならない。また彼を信じてはならない。いずれの民いずれの国の神もその民をわたしの手、または、わたしの先祖の手から救いだすことができなかったのだから、ましてあなたがたの神が、どうしてわたしの手からあなたがたを救いだすことができるのか(歴代志下三二・一一、一五)

彼はまた彼らが彼とその運命を共にするなら、生活をよくしてやると言う約束を以て、民を誘惑しました。(イザヤ書三十六参照)

この策略が効果がないとわかると、セナケリブはヒゼキヤに書を送って降服するように要求しました。その書を持ってヒゼキヤは先ずイザヤを訪ね、次に神殿に行つてその書を主の御前に置き、いかにすべきか尋ねました。再び主はイザヤに語って、王に主は彼の祈りを聞かれ、アッシリヤ人に市街を占領することを許さないと知らせなさいと告げました。

一方に於てヒゼキヤはエルサレムの防備を強化しました。彼の最大なる関心の一つは水の供給でありました。彼はギホンの泉は城壁外に在るので、もしもアッシリヤ人に攻撃された場合単に市街が水の供給から切断されるばかりでなく、そ



れを彼ら自身の目的に利用するであろうことを自覚しておりました。

ヒゼキヤは王子たちと強者たちを召してギホンから貴重な水を市内に導入できるようにケデロンの谷からチロポエオンの谷にトンネルを掘るように提案しました。それは無謀な提案であり、特に制限された時間内に山の両側面から始めねばならない困難さにかんがみ熱烈的議論が展開されたものと想像されるのであります。その技術は果して正確を期せるであろうか？ 彼らの粗悪な工具で、そのように広大な岩石を貫くことができるであろうか？ 両側から掘って果して一致するであろうか？ 時間に間に合うであろうか？ 水が流れるように工事できるであろうか？

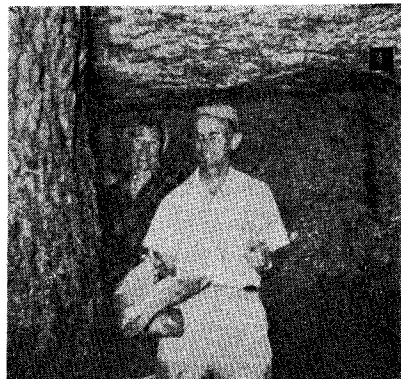
ヒゼキヤが最後の決断をせねばならず恐らくイザヤに相談して、計画通り大至急遂行するように命令が出されたのでしよう。期限内に両方からの作業者は相遇し、トンネルは完成し、水はエルサレムに導入されギホンの泉は、覆いかくされて、アッシリヤの軍隊は発見することができなかつたのであります。

私たちはヒゼキヤのトンネルについて読んだことがありますが一九六六年の夏にブリガム・ヤング大学の聖地旅行団の一員として他の会員と共に調査探険の機会を得るまでは実感が起らなかったものであります。私たちはトンネルは全長約三百ヤード、フットボール場の三倍の長

さだと聞かされました。道案内は数年前にこのトンネルを通過して膝まで水がかかるから準備するようにと言いました。

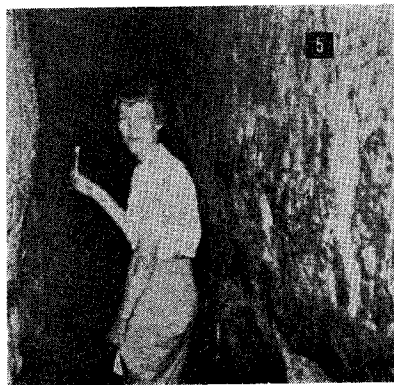
ろうそくを入手してから私たちは、ギホンの泉へ降りる三十四の広い石段を降りて、私たちのつま先で冷たい水を感じながら泉の中に入りトンネルに入って行きました。水が膝を越えて腰にまで届きそうになったのにはいささかびっくりしました。しかし全トンネルを通じて大体に於て膝下でありました。私たちの内四人は素足で、一行の内ただ一人だけが先見の明がありズック靴を持って来ておりました。

この冒険は伝説的な経験となっていました。トンネルは私たちが告げられていたような三百ヤードではなくほとんど六百ヤードの長さで、私たちが他方の終点に達する頃にはほとんどろうそくの火も燃え尽きるところでした。私たちがトンネルを調査するに及んで、これら告の人々によって為された仕事に驚歎するばかりでした。トンネル内の一步一步は皆固い岩を貫通したもので一本の支柱もありません。作業員の道具は粗末なもので、ツルハシ、ノミ及びハンマーであつたに相違ありません。今日私たちが持っているような、ダイナマイト、またはドリルのようなものは確かに彼らは持っていなかったに相違ありません。狭いトンネルの最先端で一人以上の人が同時に働らけたのでしょうか？ けずりとられたす



すべての岩片は轆に入れて作業員の肩で運ばれたに相違ありません。坑内で働いた人は誰でも新鮮な空気はどこから取ったであろうかと不思議に思われるでしょう。

私たちは彼らの技術的才能に畏れを感じます。ここに掲げてある図が示しているようにトンネルは多くの曲折があつて



Sの字形をなしています。私たちは当時の人が今日の知識と道具を持たずして山の一方から掘り始めて丁度一致する場所に進めるのはとても困難なことであつたのではないかと思われたのですが面側から掘って中央で丁度ぶつかっているのは実に見事なもので、私たちのほとんど理解できないものでした。

トンネルはその形や大きさにおいて、大いに異なつておりましたが大体において、底は十二時から十八時の広さで三呎から、あるところでは四呎も傾斜して開いて、その壁の約三呎までの高さまでは半時またはそれ以上の水あかに覆われておりました。一貫してトンネルの高さは六呎から、ある場所では十五呎から二十呎の高さがありました。底は大体において比較的に滑らかでありましたが、あるところでは大小種々の岩塊が散乱して一行の内ある人たちは、水から上つて来たときに足から血を流していたのでありました。私たちはトンネルの中に一時間以上もおり、ろうそくが燃えて小さくなるにつれまたカーヴのため、行く手が見えなかつたのですか、恐るな聖徒、を歌つて、私たちの意気を高めたのでした。

けれども遂に私たちは、その通路から抜け出てシロアムの池に入ったのでありました。ここは私たちがこのエルサレムでまだ訪ねてなかつたところでありましたが、救主が伝道したときの重要な事件に関連している池でありましたので、見

ようとして夢中になつて向いました。この池にイエスは生れながらの盲人の目にどろを塗ってから洗いなさいと遣わしたのでした。そしてそのようにしたときにその男は癒されたのでありました。(ヨハネ伝九・一―七参照) プールそのものは約十八呎の幅と五十二呎の長さであります。それは峰の果のように活動しております。多くの女が岸の岩で洗濯をし一打以上の子供たちが水浴びをしたり水泳したりしました大勢の見物人がおりました。恐らく昔はこの池は周辺の地と同じ高さにあつたのでしようが今日では三十呎も表面から下つて、石段を降りなければ水面に近づくことはできないのであります。

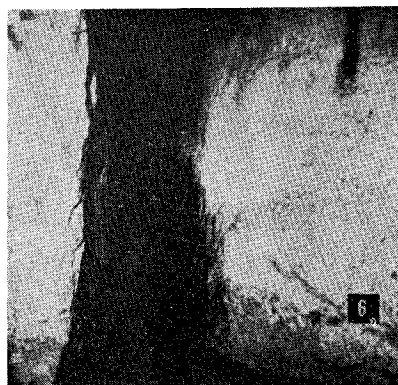
このトンネル貫通の大事業とそのエルサレム史上に果した重要な役割を考えると、聖書の作者がむさうさに取扱つてゐるのにはいささかびっくりさせられます。歴代志下には次のように出ております。

このヒゼキヤはまたギホンの水の上の源をふさいで、これをダビデの町の西方にまっすぐに引き下した。

(歴代史下 三二・三〇)

ヒゼキヤはセナケリブが来て、エルサレムを攻めようとするのを見たので、そのつかさたちおよび勇士たちと相談して町の外にある泉の水を、ふさごうとした。彼らはこれを助けた。

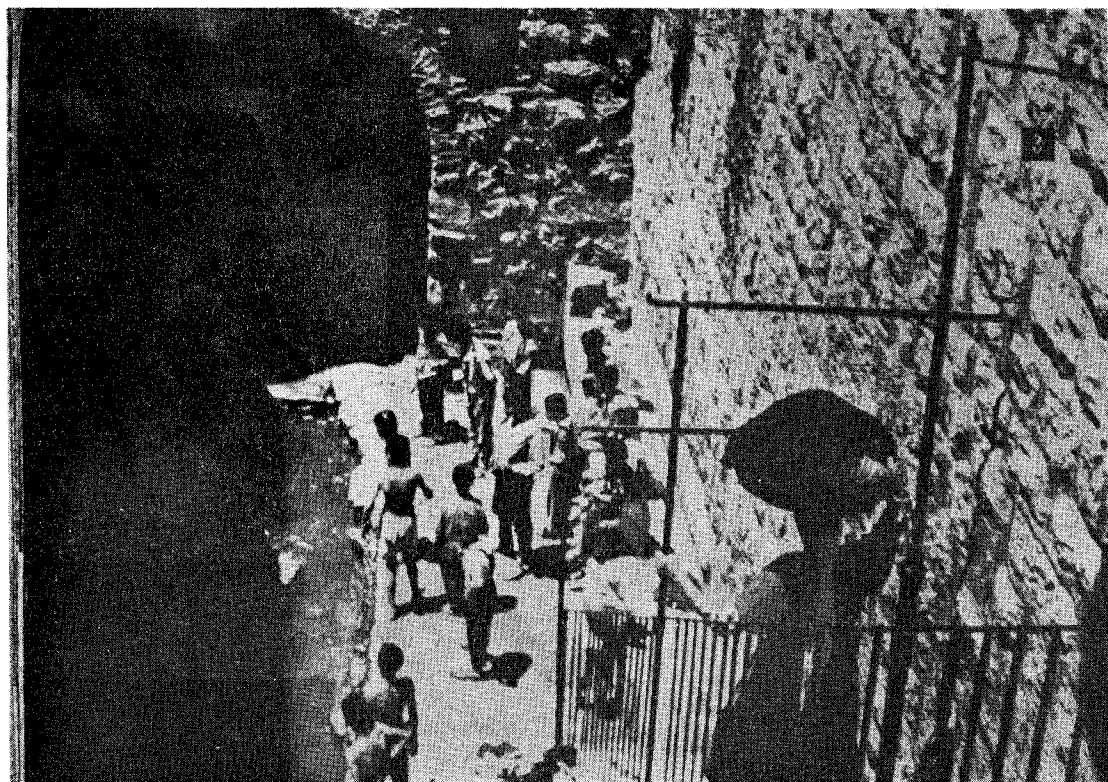
多くの民は集まつて、すべての泉およ



び国の中を流れる谷川をふさいで言った。

「アッシリヤの王たちがきて、多くの水を得られるようなことをしておいていいだろうか」(歴代史下三二・二―四) 列王紀下においてはこの大事業についてはほんの少しふれてゐるに過ぎません。ヒゼキヤのその他の事績とその武勇お





よび、彼が貯水池と水道を作って町に水を引いたことは、ユダの王の歴代志の書に記されているではないか。

（列王紀下二〇・二〇）

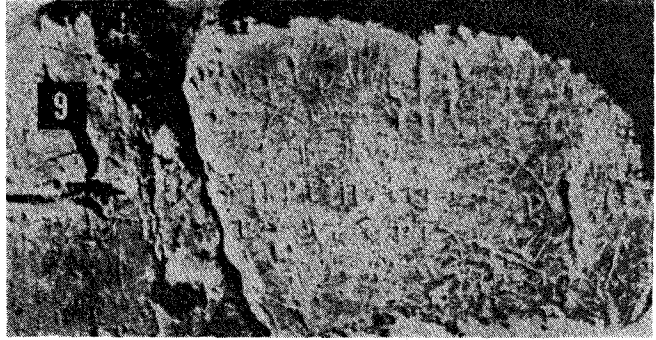
ヒゼキヤ王の技師や作業員がトンネルをいかに両側の末端から始めて深い山の中で相遇したかに就ては一八八〇年まで発見されませんでした。ある日二人の少年がシロアムの池で遊んでおりましたがお互に励まし合いながら真暗なトンネルの中に進んで行きました。少しの光もなく彼らはその手で壁を探りしながら奥へ奥へと入って行きました。三百ヤード程進んだとき一人の少年は、滑らかな壁面に何か字のようなものが刻まれているのを感じました。トンネルから出て来ると少年は急いで、自分の通字している、ユダヤにおけるロンドン、ミッシェン・スクールの先生に、そのことを知らせました。彼らはトンネルに戻って、たいまつをかざして中に入り、その幸運な発見を確認したのであります。今日この有名な書はシロアムの碑文として知られております。専門家はこれは最古のヘブライ語筆記体の見本であると告げております。それは次のように訳されます。

この発掘を見なさい。これがこの発掘の歴史である。発掘者がまだお互の方向に向けてつるはしを掘上げていた間に、まだミキュービット握らねばならない岩壁にもかかわらずお互に呼び合う声が聞え、それから発掘者たちは、双方からつ

るはしを打ち合って、水は泉から池へと一千二百キュービットの距離を流れたのであった。

今日この碑文を、ここに探しても無駄であります。もうとくに盗人によって切り取られて国外に持ち出されてしまったからです。それは現在イスタンブールの古代東洋博物館に在ります。この碑文にこのトンネルがなぜS字型に掘ったか告げてくれていたら実に素晴らしいものでしょうに、このことについて多くのおもわくがなされております。過去に於てそれは恐らく墓が在ったので右廻りせねばならなかったからであらうと思われるてきました。けれども、この理論を実証づける如何なるものも発見されませんでした。

そこにはヒゼキヤの話に追加すべき後記があります。彼の信仰はかくも偉大であり彼はおそらくわずかな人しか経験しなかった祝福を受けたのであります。彼は重病にかかりました。実際に聖典には、ヒゼキヤは病気になるて死にかかっていた、と述べてあり、イザヤは彼のところにきて、彼が生きながらえることができないから家を整理しておくようにと忠告しました。けれどもヒゼキヤは彼の仕事はまだ終っていないと感じました。おそらくトンネルがまだ完成されなかったのだでしょう。おそらく彼はその民が彼の力と指導を必要としていたことを知っていたのでありましょう。



ユダヤの歴史家フラビウス・ジョセフ
アスはその著、ユダヤ人の古代の中で述
べております。

彼（ヒゼキヤ）がまだ熱心に神を礼拝
していた間に医者が彼の病気が悪質であ
ると診断したので、彼の友だちも勇気づ
けようもなく彼はひどく落胆したのであ
りました。この外にまだ非常に悲しい状
態が王を混乱させたのであります。そ
は彼が子供を持たずして死んで行くとい
うことでした。即ち世嗣なくして彼の家
も政府も置いて行かねばならないとい
うことでした。そこで彼は、この状態を哀

れに思い彼の子供が生れるまで彼が父親
となるまで、彼の生命を延ばしてくる
ように神に懇願しました。（三〇一頁）
聖文はこのことを確認しております
がとにかくヒゼキヤは次のように言っ
て祈りました。

「ああ主よ、願わくは、わたしは真実と
真心とをもって、み前に歩み、あなたの
目にかなうことを行つたのを覚えてくだ
さい」

イザヤを通じてヒゼキヤは次のような
メッセージを受けました。

「あなたの父ダビデの神、主はこう仰せ
られます『わたしはあなたの祈を聞い
た。あなたの涙を見た。見よ、わたしは
あなたのよわいを十五年増そう。わたし
はあなたと、この町とをアッシリヤの王
の手から救い、この町を守ろう』」

（イザヤ書三八・一六）

（歴王紀下二〇・一一六参照）

このしるしとして主は大陽を十度後退
させたのであります。（歴王紀下二〇・
八一―一、イザヤ書三八・七―八参照）
主はその約束に真実にヒゼキヤの生命
とエルサレム市を守りました。聖文は次
のように記録しております。

主の使がでて、アッシリヤびとの陣営
で十八万五千人を撃ち殺した。

（イザヤ書三七・三六）

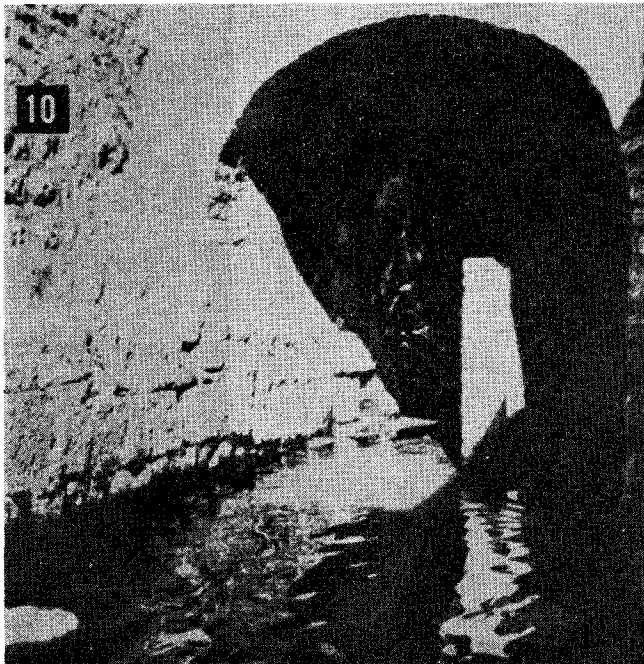
セナケリブ王は、一度もエルサレム市
を攻撃することなく、間もなくパレスチ
ナを去ってニネベに帰りました。その後

彼が異教徒の神を礼拝していたときに、
二人の彼の息子が彼を殺しました。

おそらく聖典の真実性を保証するため
に、具体的な証拠を探すべきではないか
も知れませんが、このような証拠は興味
あるものであります。私たちが聖地を、
くまなく見て旧約聖書のすべての考古学
的証拠の中でヒゼキヤのトンネルほど聖
文を身近かなものとして、より大きな意
義と現実性を与えてくれるものはない
のであります。ダビデ市そのものが長年
月の間に変化し、破壊され、何回となく
再建されて来たのであります。おそらく

イザヤまたはヒゼキヤが知っている建物
は一つも残っていないでしょう。チロポ
エオン谷には三十呎から六十呎の岩石が
堆積し、ケデロンの谷は昔のように深く
なく、市街全体を通じて、昔より約二十
五呎から三十呎高くなっているものであり
ます。

けれどもこのヒゼキヤの作業者たちに
よって、つくられた地下道は、そしてこ
れを通じて二千七百年の間流れている水
は変ることなく留って、予言者イザヤと
ヒゼキヤ王ならびにその時代を、生き生
きとさせ旧約聖書の、この部分に重要な
意義と現実性を加えるのであります。

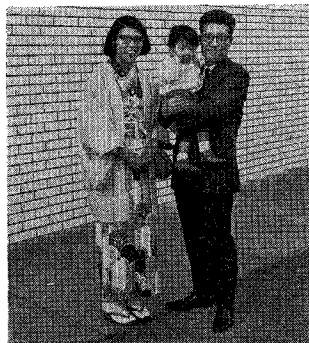


写真の説明

- 1 今日のエルサレムの東南部の景観、南方からうつす。(スケッチ二と比較しなさい)
- 2 上部はオリヴ山、ケデロンの谷はオリヴ山と市の東壁の間を北方に向けて伸び(写真の右下の方から)ています。ダビデ市はオフエルの岡の上に在り市の中央から左側に木越しに見える部分で、イエスの頃には城壁内に在りました。ダビデ市またイエスが知っていた頃のこの市に幾世紀の間、石屑にうずもれております。ヒゼキヤのトンネルは市の部分の下をケデロンの父からチロポエン谷に向かって走っております。
- 3 三十四の粗末な石段が地平線上から有名なギホンの泉に導きます。この泉はイエスの母を崇めて乙女の噴水とも呼ばれています。エルサレムの生活は幾世紀にわたってこの冷いギホンの水を中心として来たのであり早期に在ってはこの泉は地平線上にあったかも知れません。
- 4 5 この二つの写真は両側から掘ってきた作業員がちょうど相遇したほぼ中央の地点をそれぞれ側からうつしたものであります。両方の写真のトンネルの高さと幅の相違に注意しなさい。
- 右側からきた作業員は左側からきた者よりも高かったのでトンネルの床を何米か低くせねばならなかったようです。これらの写真は画家がエラの表紙の絵を描くときの参考になりました。写真中の人物はブリガム・ヤング大学聖地旅行団の会員たちであります。
- 6 7 ヒゼキヤ王の作業員たちは、硬い岩石を六百ヤードも掘ってギホンの水を市内にひきました。多くのトンネルは粗雑に貫通されました。トンネルの形態は種々異なっております。
- 8 シロアムの池は公衆洗濯場、水泳プール、それに浴場とあります。炊事用のほとんどの水はギホンの泉から、ポンプで市内に送られます。けれどもある婦人たちは末だに泉から吸んで水がめまたは五ガロン缶に入れ頭上に載せて狭い街道を自宅まで運びます。
- 9 トンネルを掘った史実を告げるシロアムの碑文、昔のヘブライ語で書かれています。それは壁にノミで刻まれたものであります。
- 10 ギホンの水はトンネルを通じて六百ヤード流れた後、イザヤおよびイエスの時代に市の城壁内に在ったシロアムの池にそそいでいます。イエスは生れながらの盲人に土をこねてぬった上、その目をこの池で洗いなさいと言われて盲人をこの池に送りしました。



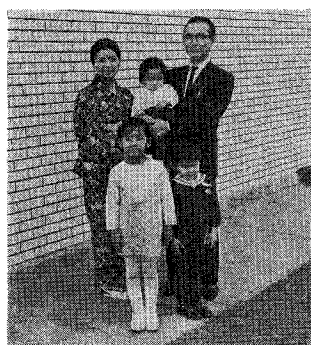
上野御一家



水野御一家



田中御一家



斎藤御一家



ラーセン姉妹と娘さん
横浜支部の新年スナップより



浅間御一家



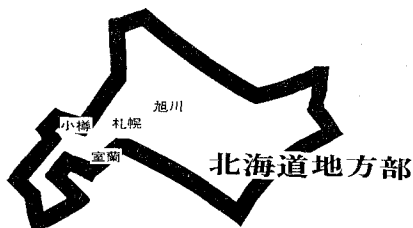
新年のごあいさつ

北から南から

北から南に細長く延びている北海道極東伝道部は、北海道・東中央・西中央・沖縄の四地方部に分れ、支部の数は現在三〇、会員数一万を起え、近い内に福島・北九州・熊本・長崎・高松が支部として組織される

と三五支部になります。輝かしい一九六八年を迎えて、各地方部長と支部長の新年のごあいさつをここに集録しました。(今回間に合わなかった支部は次号に掲載します。尚写真説明文中の

(P)は地方部長または支部長(1)は第一副地方部長または第一副支部長(2)は第二副地方部長または第二副支部長(S)は書記(S補は書記補助です。)



一九六八年北海道地方部の活動指針

あけましておめでとうございます。本年も王国発展のために聖徒等の力を結集して、努力いたしましょう。

北海道地方部では、次の四つの柱を中心に頑張りますので、ご協力をお願いします。

一、伝道活動の推進

北海道の会員は、第二回(六月)地方部大会までに千人に達する予定です。これを契機に自分の両親、兄弟、姉妹、親戚、そして知人に福音を伝え、また死者の系図を作成します。

二、定例集会の充実

各地に、わが教会の標準的な教会堂が多数建築され、求道者が増加しております。これらの人々によい霊感が与えられますように、定例集会の質的向上を計ります。特に聖さん式の内容の充実、出席率を高めるために各支部に具体的な目標を設定します。

三、ホーム・ティーチングの実践

六七年は、このプログラムの導入であ

りました。本年は、展開の年でありますので、全支部の会員が参加して、祝福を受けられるようにします。

四、福祉活動の導入

教会の福祉活動の内容を周知し、活動の精神を全会員の徹底します。またこのプログラムを通じて自立精神の高揚を計ります。

この四つの柱は、北海道の聖徒等の信仰の土台の上に建てられたものです。さらに一人一人の力を加えて壁、屋根をつけて、風雨に耐えられるようにします。ここに、私たちのもつとも愛する人々が、重荷を負うて、安らぎを得るために集うでしょう。

柳沢俊雄



列 柴田直毅 (S)
後 高杉保夫 (評)

前 列 鮫島邦彦 (1)
柳沢俊雄 (P)
児島古己 (2)

旭川支部

日本の北辺の地旭川支部の会員たちも新春を迎えて再び気持ち新たに、努力を続けようとしています。

昨年度の目標のうち、ホームテイングについては、十分な実行が見られなかったのは残念です。また改宗者数、集会出席者数等も目標に達しなかった。

しかし少ないとはいえ、会員たちの信仰と証詞は、極めて強く大きくなってきたことも確かで、かつてみられたような浮わついた状態は次第に影を潜め、足が地についてきた感じがします。

今年はこれらの反省と基盤の上に立って、次の目標を掲げたい。

第一に、ホームテイングの強化、

室蘭支部

師走もおし追った頃、支部長として働くように召されました。引き継ぎ事務、年末にしなければならぬ色々な仕事に忙殺されながら考えます。先ず第一にしなければならぬことは何であるかと。

そう、その通りです。福音を一人でも多くの人に伝えることです。何よりも先ずこれを急務としたいと思います。勿論他にもしなければならぬことは山ほどあります。でもその一つ一つが福音の紹介に密着した、そんな支部でありたいと思います。宣教師の方々の力と支部の一人一人の力を結びつけ、大きな大きな力にいたしたいものと切望いたします。

皆様方一人一人の上に常に交らぬ神の祝福が豊かにありますように心からお祈

求道者への一層の働きかけ等により、宣教師に任せきりにしないで、神権者たちが率先して伝道を実践すること。

第二に、レッスン内容の充実を中心として、各集会の質的向上を計り、常に最高のものを与えるよう配慮し、ここから出席数出席率の向上を目指す。

つまり精神的霊的充実によって、大人の教会へと脱皮し、一層の飛躍に備えたというのが今年の抱負です。今年こそ計画倒れに終わらずに着実に実行し、成果を挙げたいと念じています。

安田 琢三

り申し上げます。

遠藤 孝紀

写真説明

円内

向って右から

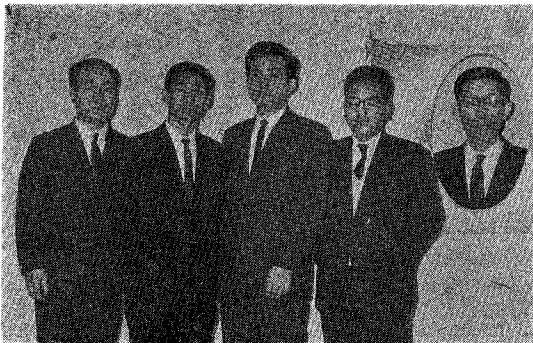
川崎英三(S補)

川上輝男(1)

遠藤孝紀(P)

平林光男(S)

梅津清美(2)



左から 安田琢三(P) 山田次美(2) 近藤 亘(1) 横井秀二(S)



小樽支部

日本のモルモンの皆様、明けましてお目出度うございます。昨年のことをふり返って見ましても、新しい年を迎えるに当たっても、共に主の恵みを一杯に受けて現世の生活を豊かに送れますことを、感謝したいと思います。私たちの住むこの現世は真に喜びあふれる、幸福になる可能性のある、よいところであります。私たちの前には、時、日、月、年という区切りがあり、人が悔改めて、前進するための助けになります。この新しい年は、過し年の全ての上であり、前進を夢見、希望を生み出す年であります。私たちは心から敬愛する小樽支部の兄弟姉妹と共に、この地にあつて我々自身を、先祖を子孫を、そして隣人を福音の恵みにあずからせるために、働いて行きたいと願っております。

この一年間に、目に見える成果はどの程度になるかわかりませんが、もし、私たちが熱心に、忠実に働くならば、この

地に、神の王国建設のための一段階を形造ることを、確信しております。

「神の業、計画、目的が破れ、また水泡に帰することは共にあり得べからず」(教義と聖句三〇一) 私たちが神の計画に参加している以上、私たちの努力がむなしくなることは決してありません。新しいこの年に皆でしっかり手をつなぎ合い、確実に、喜びあふれる心で、主の誠命を守り、一人の落伍者もないように、助け合おうではありませんか、皆様の上に、豊かな恵みと導きがありますようにお祈りします。

藤田 烈

写真説明 右から

ネルソン長老 (1)

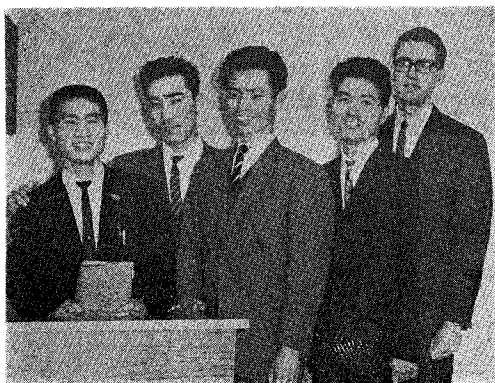
(現在はりーベン長老)

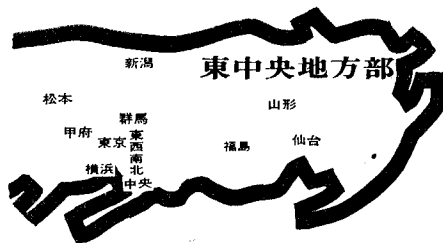
北山栄通 (S)

藤田 烈 (P)

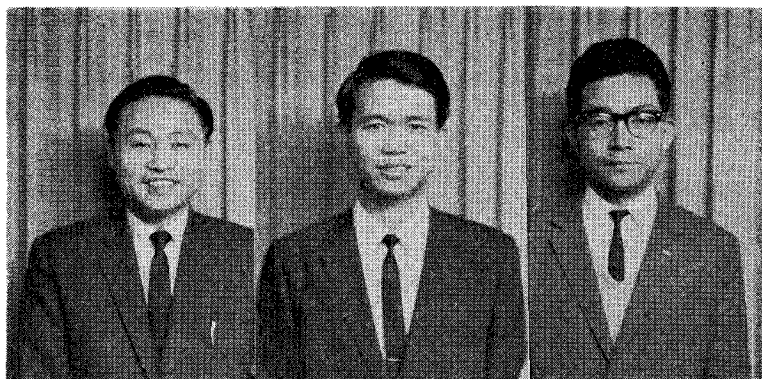
山上英明 (S補)

樋口 博 (2)





あけましておめでとうございます。多くの祝福あふれた一九六七年も去り、この新年に再び心新たに神様の仕事に精力を出そうと決心しています。昨年度はブラウン副管長はじめヒンクレー長老、ハンクス長老、ブラウン長老が相ついで日本を訪問下さり私たちの証詞は一段と強まりました。本年は昨年末の地方部地区大会で伝道部長より発表された多くの新しいプログラムが計画されています。私たちは一人一人このプログラムをよく知り皆さんと共にこのチャレンジを成功させたいと思っています。私達の地方部長会は一年間一生懸命働いて下さった第二副地方部長の小林義生兄弟が仕事の関係で京都支部に移ったため、新しく佐倉井正彦兄弟が入り、また書記補助として坪内憲二兄弟が任命されました。私たちはよく勉強して昨年以上に協力し進歩したいと思っています。現在この地方部から九名の全時間宣教師と七名の建築宣教師が召されており、さらに三十名の地方部宣教師が一生懸命神様の御国建設のため働いておりますが、本年度はこの数がさらに増加する方向にあります。また昨年度からはじまったホームチームングも一歩一歩ですが前進してきました、現在八支部がこのプログラムに参加してホームチームャーが召され、神権コーリレーション活動が行なわれています。私たちの力はまだまだ弱いですが、伝道部からの指示をよく守って、地方部、支部

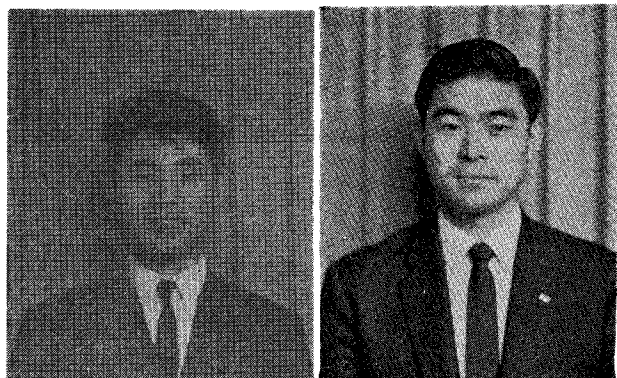


写真説明

右 佐倉井 正彦 (2)
中央 柏倉 仁 (P)
左 丸山 周兵 (1)

柏倉 仁

役員が共に協力して主の御業を進歩させたいと思います。本年度は次のカレンダーに従って地方部長会の活動が行なわれますので参考のため載せます。



右 杉本 佳津三 (S)
左 坪内 憲二 (S補)

土	金	木	水	火	月	日	曜日
〔第二〕〔第一〕〔地〕 M.I.A. 日曜学校 (7:00-8:30) 地方部委員会 (8:30-9:30)	M.I.A. (7:00-8:45)			地方部委員会 (7:00-9:30)	ホーム イブニング	神権指導委員会(2) (8:30-9:00)	1
〔第二〕〔第一〕〔地〕 音楽 社会伝道 教会伝道 (7:00-8:00) 地方部長会 (8:00-8:30) (地方部委員)				地方部委員会 (7:00-9:30)			2
〔第二〕〔第一〕〔地〕 第一教会 第二教会 伝道委員会 (7:00-8:30) 地方部長会 (8:30-9:30)	伝道部長会 との委員会 (7:00-)			地方部委員会 (7:00-9:30)		地方部指導委員会 M.I.A. (西) (3:30-5:00) (日曜学校) (伝道委員会) 地方部伝道(南) 伝道 (8:30-9:00) 地方部指導委員会 (6:00-8:30)	3
アロハ神権会 (7:00-7:30) 〔第二〕〔第一〕〔地〕 アロハ神権 英語 神権 神権 (伝道) 青少年 成人 8:30 (7:30-9:30)	M.I.A. (7:00-8:45)			地方部委員会 (7:00-9:30)			4
				地方部委員会 (7:00-9:30)			5



山形支部

全国各支部で聖徒の道を読みながら新しい年を迎えていらっしゃるモルモンの皆様、新年おめでとうございます。山形支部は建物も古くても、若い神権者たちの活気が溢れる素的な新年を迎えています。皆若くても、近い将来山形にモルモン家族を作るよう、計画を立てています。新しい年の初めに一層奮起してその目標に向かって邁進する決心を固めています。

支部長は宣教師ですが、支部長会、各補助組織は非常によくまとまり、神様の王国を強く建設中です。

さあ、今年も頑張りましょう。

柳田喬夫



写真右より

鈴木吾郎(1)

松森タグラス(S)

柳田喬夫(P)

黄木信(S補)

大沼繁弘(2)

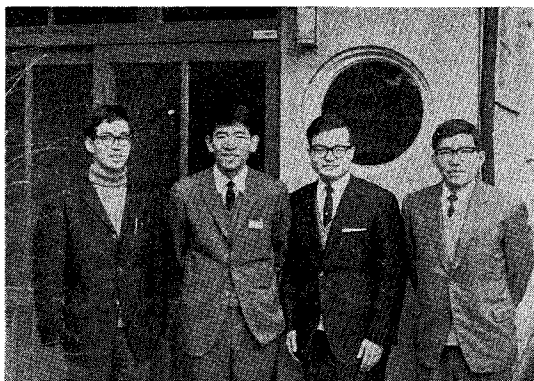
仙台支部

躍進の年、昭和四十三年の春を迎え、ここよりおよろこびを申しあげます。神の遠大なご計画は、人の愚かな知恵を超えて、着々と進められております。微力ながらも、自分の意志によってこのプログラムに参加できることは、私どもの大きなよろこびです。

永遠という視野から見直された新しい人生の歩みを今年も読きましょう。生活の中に、教会という新分野を持ち、健康の法則によって長寿を全うし、絶えざる福音研究によって頭脳明晰を保つ、文字通りの人生倍増計画を、今年も強力に押し進めて行きましょう。

主よ御照覧あれ！

阿部順夫



写真右より

阿部順夫(P)

天野昭(1)

早坂孝志(S)

高橋勝(S補)



東京東支部

全国各支部の皆さん
明けましておめでとう。

「一年の計は元旦にあり」と昔から良く言われています通り、全ての計画、予定を立てる時期として、日本人にとって正月は一年中で一番良いときであると思っています。この良きときに自分でのこの一年のプランを立て、三日坊主に終ることなく、力強く一歩一歩確実に実行し、お互に進歩しようではありませんか。

私共、東支部は昨年恵まれて、建策計画が実行され、本当にあつという間に一年が過ぎ去ってしまいました。本年は完成された教会堂のもとに大いに飛躍したいと望んでおります。

一九六八年の初頭に当って北支部の支部長会一同が決意を新たに、すなわち会員—求道者—宣教師が一体となり協和をモットーとして左記のことを推進して行くことを約束致しました。

一、伝道活動—毎週—支部長会においては監督長老と伝道について意見を交換す。また全部の宣教師とは少くとも月一回以上意見の交換を行なう。そして、会員一同は各人が順番に家庭集会の手助けをなし特に求道者には見神録の必要性を強調せしめ、会員の獲得及びフェロシッブを実施する。

一、ホームテイチング活動—ホームテイチャーを教育しマツケイ大管長の意向を十二分に、身を以って体験せしめ、各

本年も本部よりMIA受賞計画、ユー・スコンファレンス等素晴らしいプログラムがたくさん準備されております。我々全会員は一致団結し指導者のもとに全ての計画が実行され多大の成果があげられるようこの一年頑張りますよう。

私も二十代最後の年でもありシオン建設のために悔いない一年となるよう大いに張切るつもりであります。

皆様の上の神の豊かな愛と導きがありますよう年頭にあたり祈ります。

神尾 昇

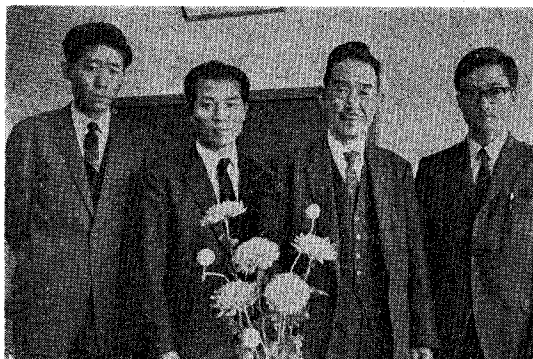
長老の自覚を促し、細く長く飽くことのないよう、真のホームテイチャーとして恥かしくないものとなるようにする。

一、系図活動—即時—一九六九年の神殿訪問の目標、特に神殿行の兄弟姉妹は即時之を作成せしめる。また、北支部の会員にして、半年以上を経過したものは、必ず一人洩れなく系図作成に取りかかるようにし、これを補助育成せしむ。

丹羽 三吾

写真

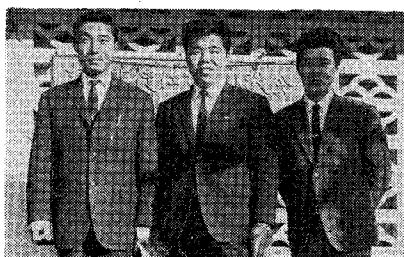
高山 秀二(2)
丹羽 三吾(P)
浅田 恒則(1)
磯部 松久(S)



岡本 亮(2)

柴田 俱男(1)
田尾 昇(P)
川 茂(S)

写真
左より





東京中央支部

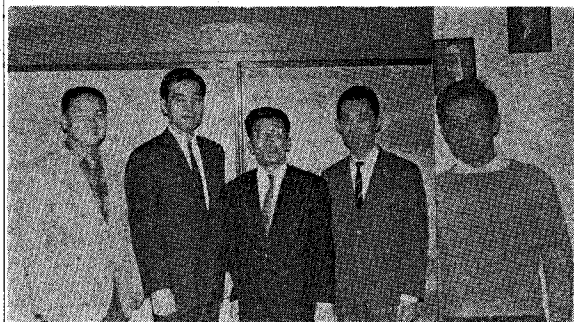
全国の愛するモルモンの皆様、新年おめでとございます。一九六八年の新しい朝を迎えて、私たち中央支部の支部長会と支部会員一同は、心一つにして、本年もまた進歩、躍進の年にしたいと思っています。特に中央支部は昨年八月前任のベテラン支部長小室兄弟のあとを受けて新しい支部長会が誕生したばかりで、支部長会は今さらながら重責にとまどっている次第です。本年の課題は、東京で一番遅れをとっている支部教会堂建築のめどを立てなければならぬと考えています。静かな礼拝堂と広い美しいリクレーションホールを夢見て、日日励みたいと思っています。本年八月に開催さ

れるユースコンファレンスには中央支部の若さにものを言わせて大勢で参加したいと思っています。このコンファレンスで皆様方とお会いする日を楽しみにしています。皆様方の躍進の大きなを望み神の豊かな祝福を祈ります。

山田義郎

写真

小笠原勝利(S補)
森島道郎(2)
山田義郎(P)
岩永昌治(1)
青木喜久雄(S)



松本支部

愛する兄弟姉妹の皆さん

新年おめでとうございます。福音の兄弟姉妹として、昨年私たちはいろいろなときに、神様から沢山の祝福を受けました。

松本では雪が降って外はとても寒いです。けれども私たちは、日曜日や、その他の集会のために、教会に集るとき、とても暖い気持ちを感じます。

松本支部は、まだ小さいけれども会員たちは、支部の発展のために、一生懸命に努力して、神様の御業のために働いています。神の祝福が皆様の上にありますように祈ります。ごきげんよう。

宮崎・ロドニー

宮崎・ロドニー (P)
タワ・メリウエル (S)



西中央地方部



新年明けましておめでとうございます。昨年一年間主の御業のために働かれた兄弟姉妹に心より感謝しております。昨年は特に主の御恵みを豊かに与へられ四月二十日・二十一日にヒュー・B・ブラウン副管長、ヒンクリー使徒を迎えて福岡と大阪で素晴らしい大会を持ち、当伝道部の将来のビジョンをはっきりと知ることが出来、出席したすべての兄弟姉妹に強い証詞を与へました。

六月にはホームテイチングを始め、会員一人一人と教会との結びつきを、より強いものとしまして、このプログラムは今年更に広く展開されます。十二月十六日には渡辺驥、田中健治副伝道部長を迎えて西中央地方部で二番目の教会堂、岡町支部の献入式を行ない本格的な建築が始められ今年中に完成の予定です。翌十七日には、同じく副伝道部長の出席のもとに、名古屋に新しい支部、名古屋北支部が誕生し土田勝兄弟が支部長として支持を受け按手任命され、従来の名古屋支部（支部長古芝健三兄弟）と共に夫々別々の支部長会を始め、補助組織もできて、二十四日のクリスマスから快調なスタートを切りました。

このように西中央地方部は、伝道部長会の指導の下、また兄弟姉妹の御業への働きを通して進歩して参りました。本年は福岡支部が西中央地方部より分れて九州地方部の誕生と共にその中核となり、やがて柳井支部の建築も始まり、さらに

来る一九七〇年の万国博まで、わずかに八百日を残す今、間もなくパビリオン建築の槌音が、高く千里丘陵に響くのではないかと思います。

希望の年を迎えるにあたり兄弟姉妹と共に尚一層主の御業のために、共に努力して行きたいと念願しております。

鈴木正三

田中 徹 (2)
鈴木正三 (P)
中村晴兆 (I)
宮川靖弘 (S)



金沢支部

皆様明けましておめでとうございます。昨年はヒュー・B・ブラウン副管長来日また第二回神殿訪問と私たちに与っては記念すべき年でありました。

本年もさらに素晴らしい祝福があるのではないかと希望に燃えて新年を迎えております。

何事においても初心が大切なように教会においてもバプテスマを受けるときは、気持は非常に大切なものです。教会員としての第一歩である、バプテスマのときの心構えについて考えてみることはこのような時間の移り変わりを感ずるときにはまた格別意義深いことではないでしょうか。

名古屋支部

全国の兄弟姉妹の皆さん明けましてお目出度うございます。去月十六日に名古屋支部が発展分割され名古屋支部と名古屋北支部が誕生いたしました。各組織とも顔ぶれを新に、心も新に新年を迎えております。神様が実にこの地と、この地に住む人々を祝福して下さっていることを、ひしひしと身を感じながら末だ福音を知らず日々をすごしている人々に一刻も早く伝えてあげたいと思います。

「見よわれは民に証し民を警めんため汝らを遣わせり、さればその警めを受けしことあるすべての人はその隣人を警むる責任ありゆえに人々言逃れあることなし、罪は人々自らの頭の上にあり」

兄弟姉妹の皆さん今年も「すべからく

「キリストのみたま」を受けたことをその行ないによりて真に明らかにする者は、すべてみなバプテスマによりキリストの教会に受け入るべし」(教義と聖約二〇章三十七節)

兄弟、姉妹と呼び合って教会に集っているのも何かの縁かと思いますが聖句にあるように自分が心にへりくだっていたか、宣教師に言われたからでなく心からバプテスマを受けたいと願っていたか、年の第一歩にあたり会員になったばかりの純粋な気持にたち帰ってみて今の自分の行動が「キリストの教会」を汚しているのではなからうかと反省の念にかられています。

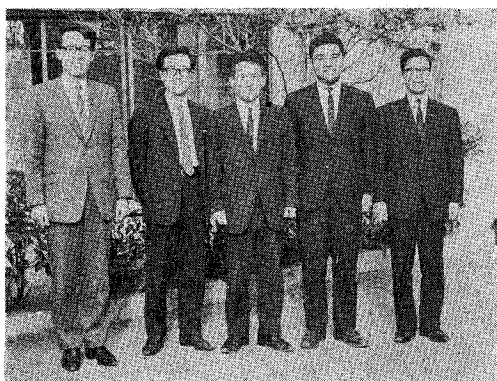
心をつくし勢力をつくし、思いをつくし体力をつくして神の役務をなせ」に励もうではありませんか。神様がわれわれを実に愛しわれわれの働に対し祝福に祝福をくわえて下さっていますことを証詞いたします。

神様の御恵が皆さん一人一人の上に今年も豊かにございますようお祈り申し上げます。

古芝健三

写真

白木 守(S補)
柴山 元義(2)
古芝 健三(P)
板倉 秀樹(1)
池田 茂美(S)



現在日本において新しい教会堂が建設されつつありますが、その中にいる私たち会員こそ本堂のイエス・キリストの会員でなければなりません。そして完全な組織、正しいプログラムが行なわれてい

(25頁上段につづく)

亀井秀明(1) 中村利雄(P)



名古屋北支部

全国の兄弟姉妹、明けましておめでと
うございます。

主は実に名古屋の地を祝福し私たちに
素晴らしい贈物を下さいました。昨年十
二月十七日、伝道部長会の提案により新
たに名古屋北支部が誕生し、私たち全会
員の夢であった中京地方部への礎が置か
れ、心から感謝しております。

この贈物は私たちにとって大きな喜び
であると同時に試練となるに違いないと
思います。

そしてその試練に立向ってゆくときの
兄弟姉妹の姿を想像するとき、主の奇し
きみ業に対する証と、主にあつて働く喜
び満足感を味わうことができます。今年は

京都支部

主イエス・キリストの再降臨を間近に
控えての、新しい年一九六八年を迎えま
した。この日本の地にも、神の御国建設
のための御業が着々として進められつ
つあります。昨年はヒンクレイ使徒とも
に、ヒュー・B・ブラウン第二副管長の
始めての来訪を頂き、すばらしい力ある
予言をなされたことは、私たちの記憶に
新しいものです。一昨年から昨年にかけ
て伝道部・地方部の強力なプログラムの
推進により、支部は来るべき、ステーク
部ワールド部の日に備えての地固めを行な
っています。

当支部も昨年度は、有能な大神権者た
ちや姉妹たちが他支部へ転出されて淋し
くなりましたが、帰還宣教師の高良兄弟

名古屋北支部の会員一人一人にとって新
しい門出であり、これを契機に、さらに
兄弟姉妹の愛と理解を深め、確固たる信
仰を培いたいと思います。兄弟姉妹の皆
様キリストの犠牲による贖いの祝福にあ
ずかるべく、主の律法に忠実に従い、神
様の御前に再び帰るうではありません
か。

土田 勝

写真

千木尚之(S補)
福山照夫(2)
土田 勝(P)
山本 修(1)
鈴木義美(S)

を支部長会の一員として迎えることがで
きたのは心強い限りです。今年は支部発
展の基となるべきアロン神権者をよく指
導し、彼等が福音の、生き生きとした強
い証しをもつことができるよう、勵まし
とチャレンヂを与え、奉仕の御業をよく
果すことができるよう、彼等一人一人に
働きかけたいと望んでいます。

伝道部地方部から出されるプログラム
を、忠実に実行することこそ、支部発展
の道につながるものと信じています。

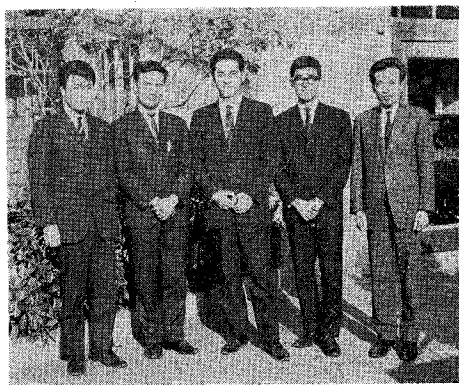
また実行に当っては困難なことも生じて
きますが、これを克服して進むときに必
ずや神様の導きがあるものと信じます。

私はモーセ書の神の御言葉「見よ、こ
れわが業にしてわが栄光、すなわち人に

不死不滅と永遠の生命とをもたらすな
り」を生涯の心の糧として、ひたすら神
様のまことの道を忠実に、最後まで耐え
忍んでゆくことができるよう、念願して
努力しています。 片山 富夫



金丸 強(1)
高良恒晴(2)
片山富夫(P)
宇野 博(S)





阿倍野支部

新年明けましておめでとうござい
ます。阿倍野支部一同になりかわりまして
御挨拶申し上げますと言いたところで
すが、なんともはや知性乏しくむさい面
々の挨拶では新年の目出度い気分もこわ
れようというもの、写真を見るたびに我
ながらウンザリ。もともと写真は正直だ
から致し方ないですが。

ボヤキあいさつはこのくらいにして、
阿倍野支部も新しい希望と目標を持って
新年を迎えております。私たちの願いは
言うまでもなく、イエスが教えられた愛
を個々人の心の中にまた教会の中にど
のように増やしてゆくか、そのために
どのような助けをすることができるとい
うことにあります。愛は実際にものごと
を動かす力であることは一般に認めら
れていることです。世の中を住心地よく
するのも、自分の悪口をいふらす人を
憎まず許すのも、救いの計画が現実の実
施されつつあるのも全て愛の力の働きに
他なりません。

私たちは今年もこの全てのものに勝る
愛の力をできるだけ貯えかつ発揮してゆ
きたいと考えています。愛の力を貯える
すなわち、愛の実力をつけることが出来
れば全ての面で実力のついた分だけ幸福
になると私たちは信じています。実力と
いうものはタナからボタモチ式に決して
つくものではありませんからどのような
したら愛の力を身につけ得るか考えて見
ました。そして今年は特に、神さまの御

心が何であるかをまずよく学び知ること
にしようと思っています。御心とは何を
さすか例えれば次ような聖句を示せば十分
だと思えます。

しかし、あなたがたは、敵を愛し、人
によくしてやり、また何もあてにしない
で貸してやれ。そうすれば受ける報いは
大きく、あなたがたはいと高き者の子と
なるであろう。いと高き者は、恩を知ら
ぬ者にも悪人にも、なきけ深いからであ
る。(ルカ六・三二〜三五)

しかし、わたしはあなたがたに言う。
敵を愛し、迫害する者のために祈れ。

(マタイ五・四四)

互に重荷を負い合いなさい。そうすれ
ば、あなたがたはキリストの律法を全う
するであろう。(ガラテヤ六・二)

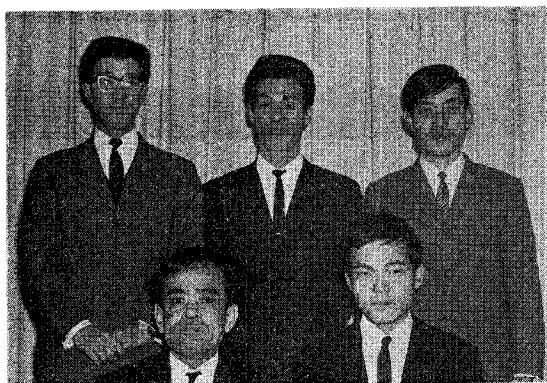
「まず神さまの御心を学ぼう。学んだ
らそれを全力で行ってみて、御心の真の
内容を肌身で感じる程に知ろう。そうし
たら自然に力がつきお互いにより幸わせ
な生活を送ることができるようになるだ
ろう」私たち支部長会員はこのように考
え本年の努力目標にいたしました。

また昨年にひきつぎ、可能な限り一人
一職主義に立脚し、支部長会―各会長会
―各教師―各クラス、活動グループの会
員間の結びつきを強めて、チョッとやソ
ッとのことでは決してガタつかない強い
支部にしたいと願っています。もし今年
の前年に支部内の力を十分に強いものに
することができれば、外に向ってゆきた

いと思っています。すなわち、不活発会
員や世の人々に私たちの力を向けて、早
い機会に常事一五〇人は出席している
という風にしたいと思っています。すでに
そのための一つの準備として、私は何人
かの会員を地方部宣教師に推せんすべく
面接しチャレンジしています。面接を通
して私は本当に愛の心をマトモに見る機
会がありました。紙面の都合で書くこと
ができませんが、このことは私たち支部
(25頁下段につづく)

写真説明

今井博文(2)
後列 神崎良太郎(P)
神成弘昭(1)
前列 東 潮(S補)
麻見寛男(S)





西宮支部

昨年を振り返って見たとき、私は、信仰が形をもってあらわれるのを、たびたび経験しました。予言を携えて来日されたブラウン副管長、神殿に参入する聖徒たち、奉仕の業に励む宣教師、新生活へスタートする男女、召しを遂行する兄弟姉妹の姿など、このように素晴らしい人々と交わることができ、深く感謝しています。新しい年は、この伝道部が、まことのシオンへ近づく、大きな一年になると確信しています。主はなぜこのようなご計画を示されるのか、よく考えシオンの花畑に美しいお花がたくさん咲くように励みたいと思います。アミユレクの証詞は、行くべき道を教えてくれます。

『私の愛する兄弟らよ、あなたたちはこのことを忘れずに、神を畏れながら善い行いを以って自分の救を全うし、再びキリストの降臨を否定せず、この上聖霊に逆らわずに聖霊を受け、喜んでキリストの御名を受け、低くへりくだってどこにいても精神をこめ真心をもって神を礼拝し神が自分たちにたもった豊かな恵みを毎日感謝してもらいたい。』

坂井 圭

写真

高城卓哉(S補)
西侯喜明(2)
坂井圭(P)
沼野治郎(1)
神田康夫(S補)

岡山支部

全国の兄弟姉妹の皆さま、新年お目出度うございます。

十数年の幼児期、子供から今年は中人へと、進んでゆきたいと思っています。支部の会員を収容する器も小さくなり、本年は大きな器へかわりたいと思っています。

岡山の地は明治以後クリスチャンとして多くの偉大な人々を生んできました。まさに岡山は、クリスチャンの歴史の地といってもよいでしょう。

また、中国、四国の要の地として今後大いに発展が期待されています。私たちもその発展におくれをとらないように、支部の発展をはかってゆきたいと考えております。

支部長会をはじめとして、会員一同は今年の目標を器の獲得、整備と中身の充実をはかって行くこととしました。小さいながらも支部に合ったホームテイニングプログラムも計画しております。私たちにあって本場の目的は何であり何のために私たちが教会に行くのか、そして何をなすべきかをこのプログラムを通して会員一人一人に理解することができるようにしてゆき、お互いに心から助け励ましあってゆきたいと思っています。

西本長老

スパークマン長老
西本長老(P)(中央)





柳井支部

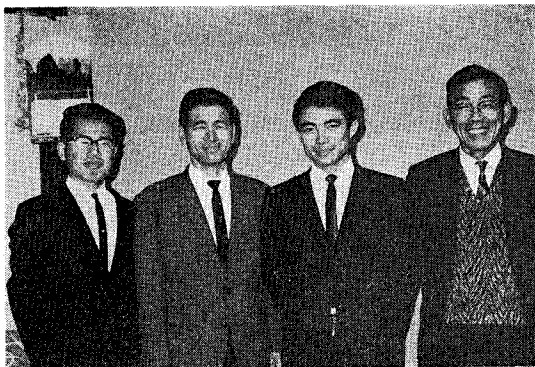
年新たたまると共に、私たちの抱負も新しくなるのは、毎年のことながら、後ろをふりかえって見ればさほどの進歩が見られないのも毎年のごとき感がします。このような現象を今年こそは打破って、柳井支部歴史上大きく印されるような進歩をとげたいと思います。今年こそは私の全力を投じて教会のために奉仕すること、いかなる困苦にも耐え、神の御業にてなし得ぬことはないことを、確信してことに当ること、これこそ、今年の最大の目標として打出し、突進して行きたい。そしてそのためには、祈りと充実した計画をたてて進みたいと思います。何卒皆様方の御指導と御励ましをよろし

くお願いいたします。

林 忠 夫

写真

武内 隆市 (2)
田中 実康 (S)
林 忠 夫 (P)
大畑 浩一 (1)



(21頁よりつづき)

るときこそ建物が本当に生きてきます。たとえ力がなくてもバプテスマを受けたときの純粹さ、それを常に持っている兄弟、姉妹の集り―それは内部建築と言うことが出来だと思います。伝道部の発展を願って先ず神様に喜ばれる支部をつくりあげるよう努力したいと思っています。

中村 利雄

(23頁よりつづき)

長会にとって非常な励ましになっていきます。

私たちの願いがどの程度、聞きとけられるかはひとえに私たち会員一人一人の信仰と願いと行ないの度合にかかっています。

私たちの希望を述べて新年の御挨拶にかえさせていただきます。

神崎 良太郎

沖縄地方部



あけまして、おめでとうございます。
明けゆく空、目覚むる世界、まさに一九六八年度は当北部極東伝道部の夜明けを迎えたかのごとく、誠に希望にみちた輝しい年になるものと確信しております。
一九六七年十月七日と八日に伝道本部に於いて開催された地方部長セミナーに沖縄地方部から初めて参加する機会を得ましたことを改めて感謝申し上げます。
席上、伝道部長会から当伝道部の将来の計画と新年度の計画を提示されたとき、真理の教会の偉大なる計画にただ驚嘆するのみでありました。私はこの計画が速やかに実現するように伝道部長会を心から支持し、かつ、伝道部長会の指示を忠実に実践せねばと意を新たにしているものであります。
しかしこのように素晴らしい計画といえども一人で実現せしめることは不可能なことであり、一人よりは二人、二人よりは三人と、さらに各支部、各地方部の力を結集してはじめて実現されるものでありますので、信仰強く、今よりもなほ一層力を合せていかなければなりません。
幸いにして、沖縄地方部も二人のすばらしい副地方部長にめぐまれておりますので、三人の力をさらに強く合せて精力と体力と意思を尽して頑張っていきたいと思ひます。
「私は主が命じたもうたことを行なうて行なう、私は、主が命じたもうことは、人がそれをなしとげるために前もつ

てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである。」ニーフアイ第一書第三章七節
年頭にあたりみなさまの上に神様の祝福が豊かにありますように心からお祈りしています。

長嶺 顕正



屋富曾昭(2)
ラーセン(S)
長嶺 顕正(P)
大城 朝次郎(1)



那覇支部

全国の兄弟姉妹、
明けましてお目出度うございます。皆様方には去った一年間色々とお喜びの年であったと思います。

南国沖縄でも皆様と同じように御国建設のためにやってみりました。会員一同今や沖縄は、ほんとに主の再臨にそなえて各組織でがんばってくれています。新垣兄弟を御紹介致しますと、彼は那覇支部設立以来この方、忠実に神様の道をおし進めてきた立派な大神権者であります。現在は三人のかわいい子供さんの父であり、会員たちのよい模範であります。次に喜村兄弟は博学多彩な方で学校の教師で数学をおしえていますが、神権者のよい教師であり、相談役であり、若

普天間支部

親愛なる全国の兄弟姉妹

謹んで新年の御祝詞を申し上げます。今年の普天間支部の目標は指導者作り、組織作り、教会堂作り、の三つにばかり兄弟姉妹が一体となって諸問題にぶつかって一歩一歩しっかりと土台を作り上げていきたいと意を新にしています。伊礼門実兄弟と平良孝雄兄弟たちが一日も早く大神権を受けられるように期待しています。多くの素晴らしい兄弟姉妹と共に主のために働けますことを感謝しています。また熱心な求道者が増えていきますので喜んでいきます。正に末の日が真近に迫っていることを日一日感じていきます。父なる神は全智全能の御方ですの

い方々からの信頼も大きいところがあります。また素晴らしい声の持ち主でいつでも大きな声で讃美歌を歌っています。まだ独身で現在結婚の準備中ですがまだ相手はいません。よろしく、このような立派な支部長会の元で組織の充実をはかりより多くの会員たちが恵みを受けることができるようにしていきたい。

また若い方々がほんとうにモルモンとして成長し立派な結婚をして立派な家庭を作っていくるようにつけていきたい。また、幼い子供たちがすくすくと伸びていくために、ホーム・イブニングの充実をはかりたい。またほんとうの兄弟姉妹になるためのホーム・テイニングは強力におしすすめていって、愛のきづなでしっかりと会員たちの結びつきをかため

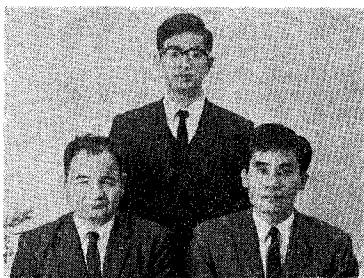
で、一度に全世界の人々に福音をのべたら全員を改宗することも不可能なことではありませんが、しかし何故にそのようにしないで私たちの働きを通して主の御業を行うのでしょうか。神は私たち一人一人の働きを必要としています。私たちなしには救いの計画は無意味になります。救いの計画は私たちのためにあるからですし、また私たちの進歩は神様の進歩でもあります。支部での兄弟姉妹の働きは天国においても大切な働きとなるでしょう。今年も神様の手足となつてがんばりましょう。

新年の 朝日をあびて

日の丸は 風に祖国を 慕いつつ

たいと思っています。全国の兄弟姉妹たちの上に豊かな実り多き年になりますように祈っています。

大城朝次郎



大城 (P)
喜村 (2)
新垣 (1)

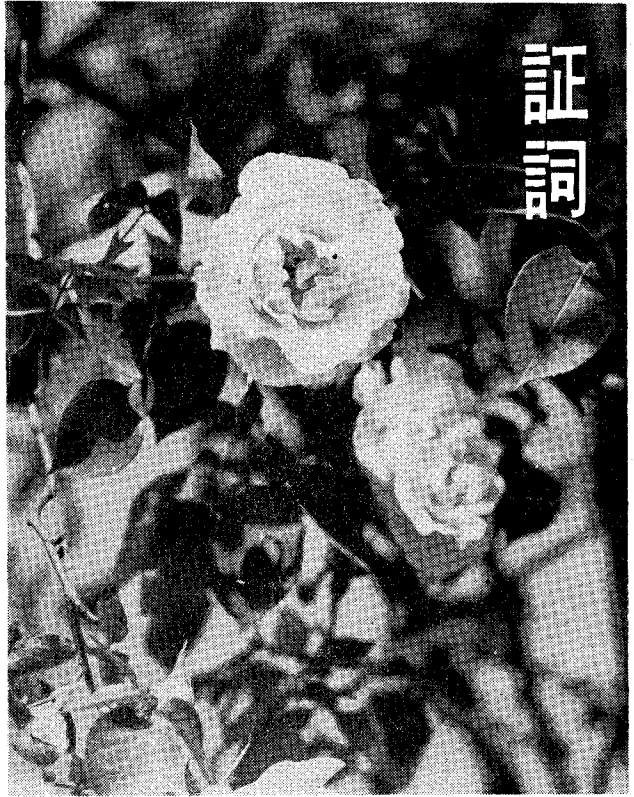
神の恵みは なお続く

とし新たまり 春来るとも

屋富祖 昭



証詞



△専任宣教師▽

伊東昌子

現在私は、宣教師として福音を人々に宣べ伝える召しにありますことを、心から感謝致します。

「汝ら人の価は神の前に大いなることを覚えよ」私がこの聖句の意味を本当に良く知ったのは、一年前地方部宣教師として働く機会が与えられた時でした。又全ての人間が神の子であるとの証を持つたのも地方部宣教師としての召しにある時でした。私が宣教師に会って父なる神を知ってから六年を経た今は、自分の過

去を振り返って見て、日々神の御守りの中で生活していたことを思います。

私は、今ここに自分が神によって生かされ、神のあらゆる恵みを知覚できる体が与えられていますことを感謝致します。

私の子供の頃の忘れられないできごとの一つに、七、八才のときイエス・キリストの生涯を絵本で見て不思議な感動を覚えたことがあります。その日から私は毎日一人薄暗い部屋に籠ってその絵本を

読み続けたことを覚えていきます。

しかし神とキリストがましますことをはっきり知らされたのは、学校で級友の一人を通してこの教会についての話を聞いた時でした。それは知恵の言葉についての話でしたが、私はそれを聞いた瞬間「あつ自分の求めていたものがここにあった」と叫び出したい程の心の動揺を覚えしました。他人から見れば、取るに足りない一人の人間の人生も神の目には大い



なるものであります。私は自分も神に覚えられていたことを、また私自身も神を覚える機会が与えられていたことを感謝いたします。「人は神に仕えたいと望むなら神に仕える権利がある」確かにこの権利は全ての人に与えられています。

そしてその最初の権利を私は、地方部宣教師の召しによって与えられました。そのときから本当の意味で、私は神の前に帰りました。人間がこの世に生をうけている意義を知りました。そして私たちに与えられている人間としての使命を知

りました。地方部専任教師としての一年を振り返って、その間に神から受けた恵みと試しを数えるだけでも実に神が生きて在しますことを証しすることができました。務めが終って夜遅く求道者と集会を持っていて私はふと自分が過す時間と他人のそれを思っ、尽し難い満足を心に覚えたことがあります。また救いの計画を初めて聞いた喜びを、父なる神を知った喜びを、隠しきれずにいる心の貧しい人々に接して、神は全人類の父であり、私たちは皆神の子であるとの証を私は何度となく持つことができました。

私の会社の務めと宣教師としての務めに悲鳴をあげるようなこともありましたが、今となっては考えてみますと、数限りない報いを与えられていたことに気がつくきます。

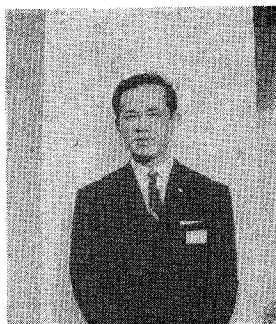
福音を伝えても受け入れない人がいます。知らずに、あるいは知りつつ神の戒めにそむく人がいます。そして本当に神を知らずにいる人がいます。それでも彼等もまた神の子です。私はいつも心にそう叫びつつ人々に生きる喜びを証したいと思ひます。そして私は神の御国建設のためにさらに全身全霊を傾けて務めを果そうと決心いたしました。

神は真実生きていらっしゃる、イエス・キリストは全人類の救い主であり、神の御子でありますことを、そして末日聖徒イエス・キリスト教会が神の教会でありますことを証したいします。

△ 地方部宣教師 △

富岡 利晃

(東京北支部)



証詞できることを深く感謝しております。宣教師としての伝道ということが、なぜこんなにも苦しく、また悩みが多くそして最大のためしの時であるかと最近痛感しています。最初に宣教師になった頃は会社の仕事もさほど忙しくなく、毎日伝道に頑張ることができました。

それからすぐ同僚がフルタイムの宣教師となつてしまつて、どうして伝道するか、毎日の祈りの中で神に問い尋ねる時間が過ぎてしまいました。いつそのこと宣教師をやめようかと思うときがありました。末の日に神の前に立つとき、それでは申し訳けなく、私自身、進歩するためには努力しなければだめだと思い、一生懸命神様に祈りました。そして頑張りました。神は私の願いを聞いて下さり、

すばらしい同僚をささげて下さいました。そして新しい気持ちで伝道を始めることができました。しかしまた、私自身思ひもよらぬことが起りました。それは会社の仕事が急に忙しくなつてしまいました。同じ課の人が会社をやめて、その仕事私が自身の背にかかつて来たためどうしようもなく、日曜日にも出勤するようになってしまい、どれだけ同僚に迷惑をかけたか判りません。支部長からも日曜日に教会へ来られない宣教師があるかと叱られるしまつて、どうすれば伝道出来るかと……会社は毎日残業で同僚との仲は悪くなるばかり、ほんとに悩みどおしの毎日でした。こんなときに祈ることが一番大切なことだと思いました。神様は私をまだ必要としていらつしたので、一番の悩みの会社のことも解決して下さいました。それは新しい人を会社は雇ってくれたのです。そしてしばらくして伝道する時間ができました。同僚との仲も旨くゆくようになり、すばらしい求道者にめぐまれて、バプテスマに導くことができました。心の底からその人のために尽すことが、どれ程その人は喜ぶことであらうか、黄金律にあることが伝道することによってでき、またその喜びをしみじみ味わうことができて深く感謝しています。

宣教師と求道者の集いの時間をもつことができて、そこで求道者同志をお互いに知り合つて頂くため、また親睦を深めるためのパーティーを開いて、より深く教会の内容を知つて頂くためのパーティーとなったのも、みんなの力でできました。そして求道者がアロン神権を受けて執事の職に按手聖任されたニュースを聞いたとき、なんと伝道とはすばらしいものだろうと深く神様に感謝している次第です。

これらをすべてイエス・キリストの御名によって証詞いたします。アーメン

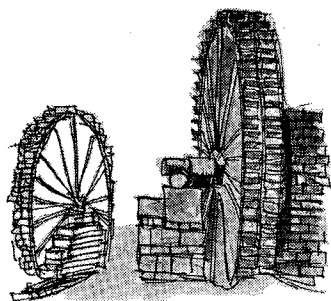
根本 寿

(東京中央支部)



私は地方部宣教師の責任をいただいていることを、本当に感謝しています。また地方部宣教師に任命されてから宣教師の気持が良くわかるようになりました。私たちと同じように神様の仕事をしたいといつも美しいみ霊に満されているこ

とがよく判ります。私は伝道の成績はあまり挙つていませんが、いつでも神様の仕事をしなければいけないと、そしてすべての人々に福音を宣べ伝えなければいけないとの心構えはいつももつています。これからも、もっと努力して神様の御福音を宣べ伝えるよう頑張ります。またこの末日聖徒イエス・キリスト教会は真の教会であること、そしてジョセフ・スミスが神様から召された予言者であること、また小松伝道部長と柏倉地方部長そして今井兄弟が神様から召されたことを信じ、支持しています。すべてをイエス・キリストの御名によりて証詞いたします。アーメン



おめでとう！ 岡町支部

待望の鍬入れ式行われる

1967年12月16日午後3時

(1)



鍬入れ式に集った聖徒たち

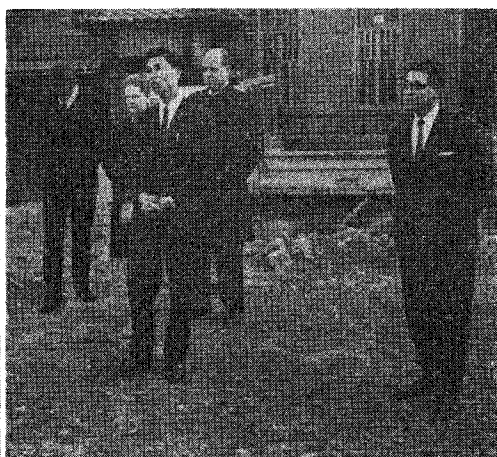
鍬を入れる教会役員たち



杉村裕一 岡町(2)
石井英一 岡町(P)
鈴木地方部長
渡辺第一副伝道部長
ハーデング監督
ハーデング姉妹
ラーセン監督
田中第二副伝道部長
牧瀬十二郎 岡町(2)



岡町で働く建築宣教師たち



渡辺副伝道部長のお話し



扶助協会の会員と子どもたち



ラーセン監督の図面説明（次頁参照）



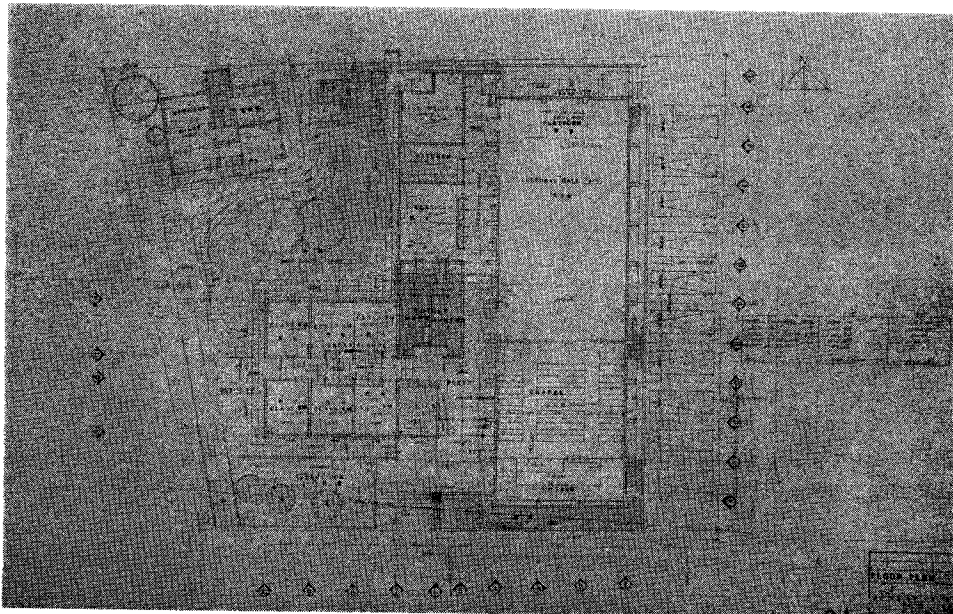
監督と支部長の打合せも一段と熱が入る



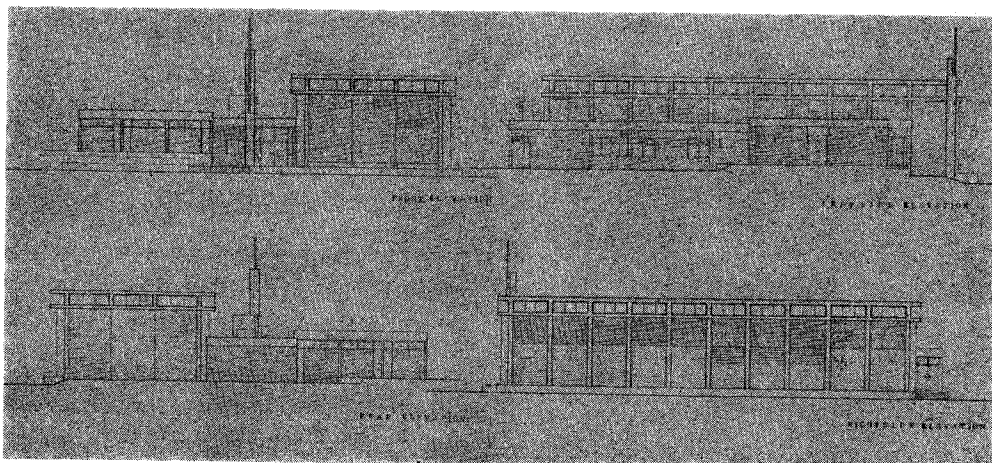
石井支部長力強く建築協力を誓う



力強い建築宣教師たちの鍬入れ



岡町支部の青写真



名古屋に二つ目の支部誕生

た。両支部の御発展を切に祈ります。

人口一五〇万以上中部地方の中心的城市として発展してきた名古屋市に、当教会の支部が今まで一つしかなかったのは不思議なくらいです。しかし昨年十二月十七日に、渡辺、田中の副伝道部長を迎えて一大改革が行なわれました。

今までの名古屋支部は、二つに発展分割され、新しく名古屋北支部が組織されました。新しく組織された名古屋支部と名古屋北支部の支部長会をご紹介します。東京と大阪の中間に在り、東京大阪に負けずに、ステーク部となるよう、今後の御活躍を期待しています。またモルモンとして最古参の一人高木富五郎兄弟も健康を回復されて当日出席されました。



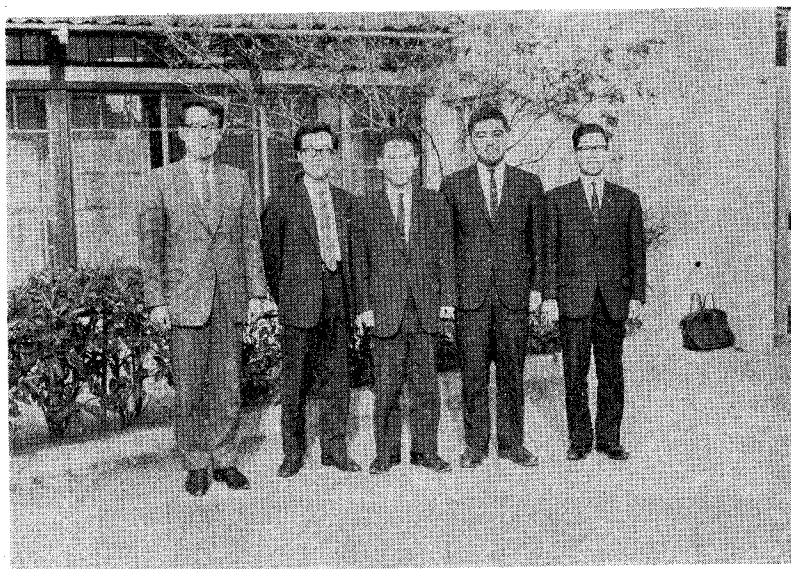
高木富五郎兄弟



区域別けの賛成挙手

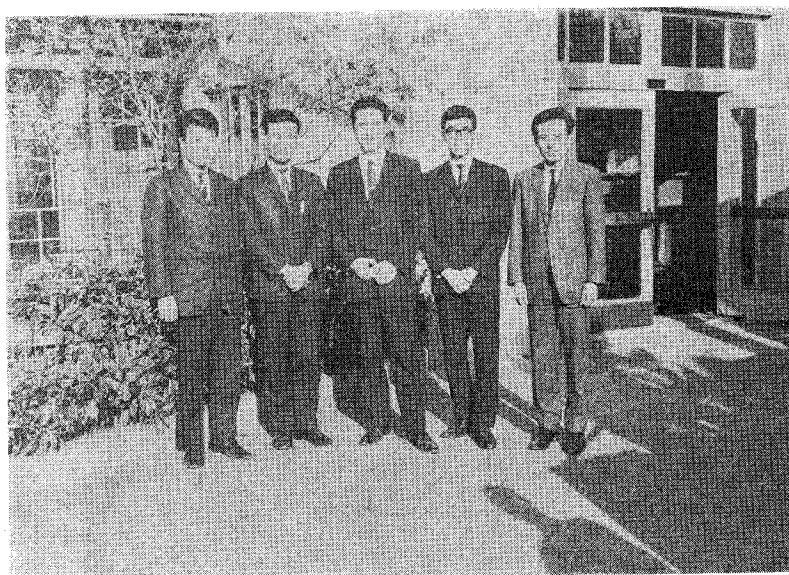


旧名古屋支部としての最後の集会



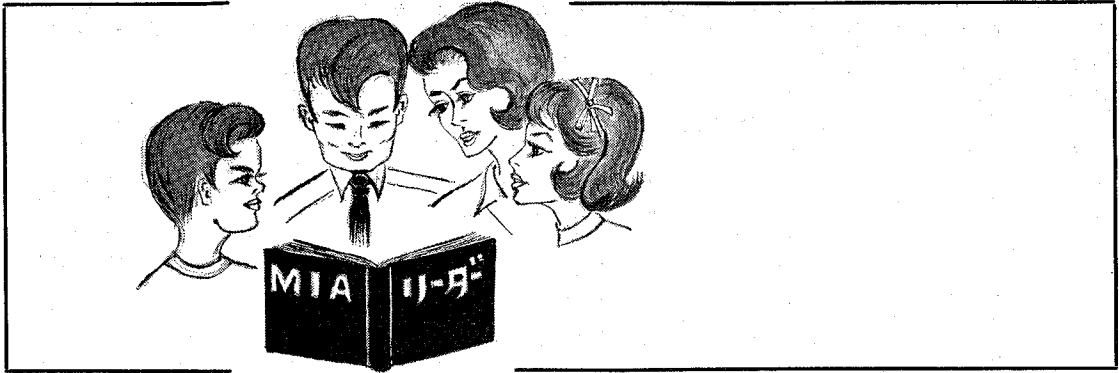
名古屋支部長会

白木 守(S補)
 柴山 元義(2)
 古芝 健三(P)
 板倉 秀樹(1)
 池田 茂美(S)



名古屋北支部長会

千木 尚之(S補)
 福山 照夫(2)
 土田 勝(P)
 山本 修(1)
 鈴木 義美(S)



MIA活動について「その一」

新年おめでとうございます

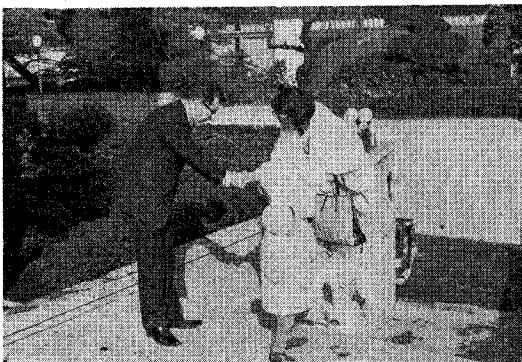
今月からしばらくの間MIAの諸活動つまりダンス、演劇、音楽、演説、スポーツの五つが通常活動とされていますがこれらのことについて皆様と共に研究して行きたいと思っています。

ご承知のようにMIAが組織されたのは、青年男女がより効果的に教義を学び真理の生きた証詞を得る必要があったために組織されたのでした。それは現在でも全く同じ価値を持つのです。また苦しい開拓時代にあつては唯一のレクリエーション活動として楽しんだことでしょう。末日聖徒には永遠に学ぶという課題が与えられています。身も心も発達させるには、自分からできるだけ多くのプログラムに参加しなくてはその機会が有りません。現在もその機会がMIA活動として与えられています。ですから音楽にも、スポーツにも、ダンスにも演劇にも、演説にも全て末日聖徒は一応の知識と技術を身につけなくてはならないでしょう。これらを心に置いて次のことを共に考えて下さい。

一、ダンス

現在いろいろなダンスが流行していて

それはそれは目まぐるしいものです。しかし教会においては礼儀正しく、美しいダンスを踊るべきではありませんか、現在、ルンバ、マンボ、ジルバ等まで踊ることは許されています。これ等も数年前までは善からずとされ、アメリカではジルバも激しいものは禁止されている所もある程です。現在流行のゴーゴーも全く禁止とはされていませんが、見苦しい姿になることや、陶醉するほど激しく踊ることはMIAの目的から外れますのでこのダンスは避けられるべきです。前に述べました見えても美しく楽しい踊り方の工夫をしてみることです。フォークダンスではこれらの事柄に関して特に注意することはありませんけれど、良い指導者の居る支部では非常に技術も高度で素晴らしいのですが、指導者に恵まれない支部では、いつも同じ曲と技術で一向に進歩がありません。皆が楽しんでいるのでしたらそれなりに益も有りますが仕方無しに参加しているようでしたら指導者はその指導方法を考へてその域を脱して下さい。それには、各地方部MIA会長会宛に技術指導を申し出ることもできますし、教会外でも機会あるごとに学んで来ることでもできるでしょう。また大会時に覚えて来るのも一方法です。決して高望みはしないで良いですが、各々の支部の様子をみてそれなりのレベルアップを目ざして下さい。それでは実際に指導の場に立ったときのことを考えてみましょう。



横浜支部の新年風景



う。

いかに活動時間の四〇分間を有効に使用しましょうか？ MIA手引のP三十五を開いて下さい。四つの留意すべき事柄が書かれています。

まず第一に、ダンスを習いたいと思つてクラスに出席した新しい会員をそのクラスの人たちに紹介するでしょうか。

見知らぬ同志よりも誰であるか少しでも知った方がダンスをするには親しさと楽しさの点で大きな相違が出て来ます。

初めてダンスを習いたいと思つてクラスに来た人は、きつと、どのようなことをするか不安な気持だと思ひます。その不安から余力が入つてきこちない体になることも多々ありますのでその人を中心に二言三言話をして気持をほぐしてから始めると良いでしょう、ここで注意することは決してそれに時間を取り過ぎないことです。せっかくの活動時間が紹介のために少なくなったのでは仕方がありませんね。多数の人たちの間で新しい友だちを紹介するのは一方的であつても効果的ですからその状況に応じた方法を講じて下さい。

第二、ステップがわからないでまづいてる人があつたときその人に助け舟を出しますか？

誰でも解らないから習いに来るのですから「こんなに何回も教えたのに」とサジを投げず一生懸命覚えようとしている人に親切な援助を与えて下さい。指導者

は誰にでも解る方法で教えるべきですから男性、女性両方のステップを良く覚え込んでおいてすぐ両方のステップを言つてあげると踊りやすくなります。またカウントの取り方も、はっきりして下さい。フォークダンスでは特にステップの名称を教えてから、いつもその名称を使つて覚えさせることが大切です。それは曲が變つてもステップ名だけ指示すれば踊ることができるようになるからです。また良く覚えられる人と覚えにくい人を組にするとか、指導の水準を指導者が的確に判断することも重要です。

第三として、出席している人たちが部屋の四隅で雑談を始めたらしめますか。

第四として、次の集会には他の活動へダンスのクラスの人が行つてしまつたときにはどうしますか。

この第三と第四の項目はほとんどの責任が指導者にあると考える必要があります。たとえMIAはお互いに進歩し合う集会だからと言っても、会員たちは積極的に学ぼうとはして来ませんから、それを指導者は、いかに興味を持たせ、あきさせず積極的に学ばせるかその方法を考えなければなりません。それを怠る指導者は三、四の項目の事態が生じるのです。部屋の隅で話し始めた人たちに、ただ「話しをやめて下さい！」「話しをするのでしたら外に出て行って下さい！」等と声を張り上げても雰囲気はこわすだけ

けですし、その人々は二度とこのクラスには入つて来ることは無くなつてしまひます。そのようなとき、「では誰々さんこのステップをしてどうでしたか？」等と全体の人の気持を冷さないよう上手に注意する必要があります。なによりもこれを事前に防ぐことが第一ですから、皆んなに信頼される立派な人格と敬けんな態度を身につけた指導者となり、集つた人々が今何を望んでいるか常に心に留めたプログラムができるだけのゆとりをもつた指導者になつてほしいものです。

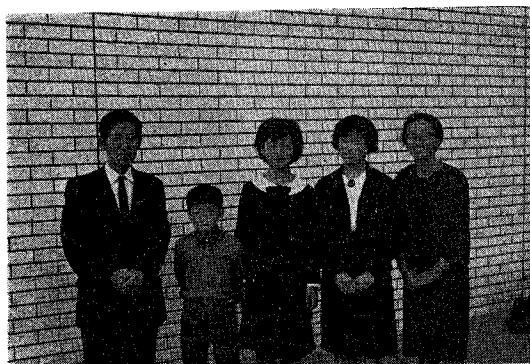
この他にダンスの活動を色くする方法や、実際に成功している方法がありましからお知らせ下さい。

二月十五日は「支部ダンスパーティー」があります。どうぞこの機会にダンスの素晴らしさを人々に伝えてあげて下さい。

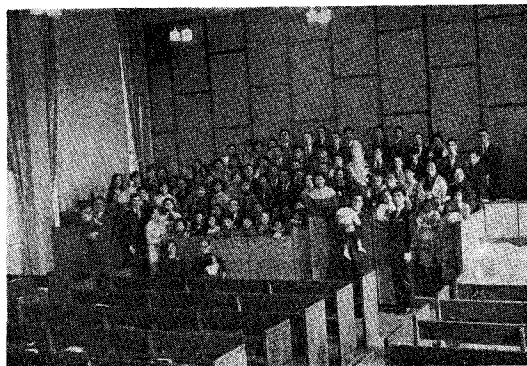
次回は演説について考えることにいたします。

伝道部YW第二副会長

稲垣 聖子



渡部御一家



横浜支部の新年風景

図書案内

教義と聖約 高価なる真珠 上質革製合本 モルモン経 教義と聖約 高価なる真珠 合本 モルモン経(新約) 信仰箇条の研究 基督・イエス 末日聖徒イエス・キリスト教会略史 モルモンとは(新版) 総合聖句の手引 メルケゼデク神権、教師と生徒用 神権とあなた 私たちの生きた福音 神の王国 アロン神権者用学科課程 アロン神権のなかの祭司 回復された神の教会 神と人 家庭に於ける神権の発揚 モルモン経の新研究 日本系図探求要覧 扶助協会手引 求道者教育法 モルモン物語	一
--	--

図書の購入は支部長会に申し出てください

聖徒の道は

私たちが真理を知る「てだて」であり

私たちの心と心がかよう道です

あなたの霊の進歩のために

あなたの信仰のかてのために

お役に立つ本であればと思います

聖徒の道

一九六八年一月二十日発行

振替口座 東京一六三二六番

発行人兼編集人 アドニー・Y・小松

発行所

東京都港区南麻布五丁目八番十
末日聖徒イエス・キリスト教会

電話 四七三十一六一三

印刷所 株式会社三五堂

定価七十円

一年予約七〇〇円（申込は支部長まで）

支部所在地

北海道地方部

旭川 旭川市8条5丁目
電話 (0166-2-1545)
MIA集会所 旭川公会堂
室蘭 室蘭市幸町12-9
電話 (0143-2-7054)
小樽 小樽市富岡町1-35
電話 (0134-2-8224)
札幌 札幌市南20条西16丁目
電話 (0122-56-7175)

東中央地方部

群馬 高崎市並榎町275
電話 (0273-22-7121)
甲府 甲府市中央3丁目12-2
電話 (0552-3-2409)
松本 松本市開智1-1-6
電話 (02634-3-8093)
新潟 新潟市明石通3-40-1
仙台 仙台市光禅寺通り28
電話 (0222-25-0897)
東京中央 東京都港区北青山3-6-4
電話 (03-400-3307)
東京北 東京都中野区江原町1-8-14
電話 (03-953-8244)
東京東 東京都江戸川区西小岩5-8-6
電話 (03-658-7310)
東京南 東京都大田区南千束町2-25-11
電話 (03-729-6311)
東京西 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-7-7
電話 (0422-22-6764)
山形 山形市七日町4-12-23
電話 (02362-3-3380)
横浜 横浜市港北区篠原町29
電話 (045-401-8772)

西中央地方部

阿倍野 大阪市阿倍野区阪南町中1-11-8
電話 (06-623-4315)
福岡 福岡市浄水町46
電話 (092-52-8653)
広島 広島市高須2-7-29
電話 (0822-71-5309)
金沢 金沢市兼六元町3-8
電話 (0762-21-2131)
京都 京都市左京区下鴨松原町44
電話 (075-70-4067)
名古屋 名古屋市昭和区北山町3-41
電話 (052-731-4210)
西ノ宮 兵庫県西ノ宮市仁川町4-54
電話 (0798-51-0141)
岡町 大阪府豊中市岡町北2-18
電話 (068-52-1236)
岡山 岡山市学南町1-13-11
電話 (0862-52-3560)
三ノ宮 神戸市灘区篠原本町4-35
電話 (078-86-2602)
柳井 山口県柳井市今市391
電話 (106 申込柳井7)

沖縄地方部

普天間 沖縄宜野湾市野嵩区328
那覇 沖縄那覇市崇元寺町1-128-20
電話 (3-1620)
建築部事務所 東京都港区北青山3-6-4
電話 (400-4080)

(誤りのある支部の支部長はご一報ください)